

* وَلَوْ أَنَّا نَزَّلْنَا إِلَيْهِمُ الْمَلَائِكَةَ وَكَمَّمَهُمُ الْمَوْتَى وَحَشَرْنَا عَلَيْهِمْ كُلَّ شَيْءٍ قُبُلًا مَا كَانُوا لِيُؤْمِنُوا إِلَّا أَنْ يَشَاءَ اللَّهُ وَلَكِنْ أَكْثَرَهُمْ يَجْهَلُونَ ﴿١١٦﴾ وَكَذَلِكَ جَعَلْنَا لِكُلِّ نَبِيٍّ عَدُوًّا شَيْطِينًا الْإِنْسِ وَالْجِنِّ يُوحِي بَعْضُهُمْ إِلَى بَعْضٍ زُخْرُفَ الْقَوْلِ غُرُورًا وَلَوْ شَاءَ رَبُّكَ مَا فَعَلُوهُ فَذَرْهُمْ وَمَا يَفْتَرُونَ ﴿١١٧﴾ وَلِتَصْغَى إِلَيْهِ أَفْئِدَةُ الَّذِينَ لَا يُؤْمِنُونَ بِالْآخِرَةِ وَلِيَرْضَوْهُ وَلِيَقْتَرِفُوا مَا هُمْ مُقْتَرِفُونَ ﴿١١٨﴾ أَفَغَيْرَ اللَّهِ أَبْتغَى حَكَمًا وَهُوَ الَّذِي أَنْزَلَ إِلَيْكُمُ الْكِتَابَ مُفَصَّلًا وَالَّذِينَ آتَيْنَاهُمُ الْكِتَابَ يَعْلَمُونَ أَنَّهُ مُنَزَّلٌ مِنْ رَبِّكَ بِالْحَقِّ فَلَا تَكُونَنَّ مِنَ الْمُمْتَرِينَ ﴿١١٩﴾ وَتَمَّتْ كَلِمَتُ رَبِّكَ صِدْقًا وَعَدْلًا لَا مُبَدِّلَ لِكَلِمَاتِهِ وَهُوَ السَّمِيعُ الْعَلِيمُ ﴿١٢٠﴾ وَإِنْ تَطَّعْ أَكْثَرُ مَنْ فِي الْأَرْضِ يُضِلُّوكَ عَنْ سَبِيلِ اللَّهِ إِنْ يَتَّبِعُونَ إِلَّا الظَّنَّ وَإِنْ هُمْ إِلَّا يَخْرُصُونَ ﴿١٢١﴾ إِنْ رَبِّكَ هُوَ أَعْلَمُ مَنْ يَضِلُّ عَنْ سَبِيلِهِ وَهُوَ أَعْلَمُ بِالْمُهْتَدِينَ ﴿١٢٢﴾ فَكَلُوا مِمَّا ذُكِرَ اسْمُ اللَّهِ عَلَيْهِ إِنْ كُنْتُمْ بِآيَاتِهِ مُؤْمِنِينَ ﴿١٢٣﴾

111 もしわれらがかれらの注文に応じて天使たちを下してかれらがそれを見たとしても、かつまた死者がかれらに話しかけてあなたがもたらしたものが正しいことであることを知らせたとしても、さらにかれらが注文したものを全て目の前にもたらしたとしても、かれらはなお疑いの目で逐一吟味しようとするだろう。アッラーが導きを望まれた者以外は、そもそもかれらにあなたがもたらしたものを信じるつもりはないのである。かれらのほとんどはそれを知らず、導いてもらえるようにアッラーに縋ろうとはしない。

112 多神教徒の反対であなたに試練を与えたように、われらは以前の全ての預言者に試練を与えた。われらはかれら(預言者たち)一人一人に、人間やジンの反抗者をもたらした。かれらはお互いに囁き合い、騙そうとして虚偽を美化するのである。万が一アッラーがかれらにそうしないことをお望みになったなら、かれらはそうしなかっただろう。しかしながら、かれは試練としてそれを望まれたのである。だからかれらが不信仰で嘘をつくの放っておき、かれらのことを重荷に感じなくともよい。

113 お互いに囁き合うのに偏るのは、あの世を信じない心であり、かれらは自分自身のためにそれを受け入れ、満足し、違反行為や罪を獲得するだけ獲得するのである。

114 使徒よ、アッラーのほかに別のものを並べ立てて崇めるこれらの多神教徒に言いなさい。「アッラー以外の存在をわたしとあなたがたの間の裁定者として受け入れるのがまともなこととして考えられるでしょうか。アッラーこそは、全てを余すことなく解明するものとしてあなたがたにクルアーンを下された御方なのです」と。われらが律法書を与えたユダヤ教徒や、福音書を与えたキリスト教徒は、クルアーンが真理とともにあなたに下されたのを知っている。それはかれらの啓典にその証拠となるものを見出していたからであり、われらがあなたに下したものを疑う者となってはならない。

115 クルアーンはその言説と情報において究極の誠実さに達し、その言葉を変え得るものはない。かれこそは僕たちの言葉を聞き、知る御方である。かれにとって不鮮明なものは何一つなく、かれの御言葉を変えようとする者には、相応の報いを与えられるだろう。

116 使徒よ、万が一あなたが地上にいる大多数の人に従ったならば、かれらはあなたをアッラーの教えから逸らしてしまうだろう。真理は少数派とともにあるというアッラーの摂理が成立したとおりであり、ほとんどの人は根拠のない思い込みに従うだけである。かれらは自分たちの崇めるものが仲介者としてアッラーに近づけてくれると思い込んでいるが、かれらは嘘をついている。

117 使徒よ、本当にあなたの主は人々のうち誰が道に迷うかを知っておられ、正しく導かれる者についてもよりよく知っておられる。かれにとって不鮮明なものは何一つない。

118 人々よ、もしあなたがたが明らかな証拠を本当に信じる者であったなら、屠殺の際にアッラーの御名が唱えられたものを食べなさい。

本諸節の功德:

- 僕たる人間にとって最大の目的は、真理に従い、それをアッラーが明らかにされた道にのっとり求め、実践し、主のお助けを願い、自分の力に頼らないことでなければならない。
- 知的な信者の少数派へのクルアーンの公平さは、無知と迷妄を多数派に帰すことである。
- 神の被造物に関する摂理として、預言者たちとその信奉者には人間とジンの敵対者を出現させるということがある。なぜなら真理はその反対の虚偽によって知られるからである。
- クルアーンはその情報において真実を語るものであり、その諸規定において公平であり、その情報の中で現実に違えるものを見つけることはできず、その諸規定の中で真理に違えるものを見つけることはできない。

وَمَا لَكُمْ أَلَّا تَأْكُلُوا مِمَّا دُكِرَ اسْمُ اللَّهِ عَلَيْهِ وَقَدْ فَصَّلَ لَكُمْ مَا حَرَّمَ عَلَيْهِمْ إِلَّا مَا اضْطُرُّوا بِهِ وَإِنَّ كَثِيرًا لَيُضِلُّونَ بِأَهْوَاءِهِمْ بِغَيْرِ عِلْمٍ إِنَّ رَبَّكَ هُوَ أَعْلَمُ بِالْمُعْتَدِينَ ﴿١١٩﴾ وَذَرُوا ظَاهِرَ الْإِثْمِ وَبَاطِنَهُ إِنَّ الَّذِينَ يَكْسِبُونَ الْإِثْمَ سَيَجْزَوْنَ بِمَا كَانُوا يَفْتَرُونَ ﴿١٢٠﴾ وَلَا تَأْكُلُوا مِمَّا لَمْ يُذَكِّرْ اللَّهُ عَلَيْهِ وَإِنَّهُ لَفِسْقٌ وَإِنَّ الشَّيْطَانَ لِيَؤِخِرَ إِلَى أُولِيَآئِهِمْ لِيُجِدُوا لُوغَهُمْ وَإِنْ أَطَعْتُمُوهُمْ إِنَّكُمْ لَمُشْرِكُونَ ﴿١٢١﴾ أَوْ مَن كَانَ مِيثًا فَأَحْيَيْنَاهُ وَجَعَلْنَا لَهُ نُورًا يَمْشِي بِهِ فِي النَّاسِ كَمَن مَّثَلَهُ فِي الظُّلُمَاتِ لَيْسَ بِخَارِجٍ مِّنْهَا كَذَلِكَ زُيِّنَ لِلْكَافِرِينَ مَا كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿١٢٢﴾ وَكَذَلِكَ جَعَلْنَا فِي كُلِّ قَرْيَةٍ أَكْبَرًا مُّجْرِمِيهَا لِيَمَّا كُرُوا فِيهَا وَمَا يَمْكُرُونَ إِلَّا بِأَنْفُسِهِمْ وَمَا يَشْعُرُونَ ﴿١٢٣﴾ وَإِذَا جَاءَتْهُمْ آيَةٌ قَالُوا لَنْ نُؤْمِنَ حَتَّى نُؤْتَىٰ مِثْلَ مَا أُوتِيَ رُسُلُ اللَّهِ اللَّهُ أَعْلَمُ حَيْثُ يَجْعَلُ رِسَالَتَهُ سَيَصِيبُ الَّذِينَ أَجْرَمُوا صَغَارٌ عِنْدَ اللَّهِ وَعَذَابٌ شَدِيدٌ بِمَا كَانُوا يَمْكُرُونَ ﴿١٢٤﴾

の行う多神崇拝や死肉を食べること、虚偽での論争が美化されたように、不信仰者にとって自分たちの行う違反行為は美化され、復活の日に痛ましい懲罰で報いられるのである。

①19 信者よ、アッラーの御名が唱えられたものを食べるのを妨げるものは何か。すでにアッラーはあなたがたに何が禁じられるかを明確にされたのだから、それらはもうやめなければならない。ただ、必要不可欠な事態に陥った場合は別であり、必要不可欠さは警告されたものを容赦する。多神教徒の多くはその無知のせいでかれらの信奉者を真理から遠ざけている。死肉などのようにアッラーが禁じられたものを許可したり、バヒーラ(ある数の子を産むと耳の切られるラクダ)やワスイーラ(メスを産み続けたラクダ)やハーミー(何頭か子どものできたラクダ)などのようにアッラーが許可されたものを禁じたりするからである。使徒よ、本当にあなたの主は定めの境界線を越える者たちを誰よりもよくご存知であり、その越え方に応じて報いられるのである。

①20 人々よ、人目についてもつかなくても、罪を犯すのはやめなさい。こっそりとであろうとあからさまにであろうと、罪を犯す者たちにはアッラーがかれの稼いだことに応じて報いられるだろう。

①21 ムスリムたちよ、アッラーの御名が唱えられていないものを食べてはならない。かれ以外の名が唱えられていてもそうでなくても、である。それを食べるのはアッラーに背くことになる。悪魔たちは死肉を食べることでああなたがたに議論をけしかけようと、その仲間に疑念を囁きかける。だからもしムスリムたちよ、あなたがたがかれの投げかける疑念に従って死肉を許可することになれば、あなたがたもかれらと同じように多神崇拝に陥ったことになる。

①22 かつては不信仰と無知と違反にまみれていたために死人同然であったにもかかわらず、信仰と知識、そして従順さへと導かれることでわれらが蘇らせた者と、不信仰や無知、違反の闇の中にあり続けて出られず、正しい道が暗くて見えなくなってしまった者などが等しいなどということがあろうか。これらの多神教徒にとって自分たちの行う違反行為は美化され、復活の日に痛ましい懲罰で報いられるのである。

①23 マッカの多神教徒の頭領格の者たちがアッラーの道を妨害したように、われらは全ての村に悪魔の道を広めようとし、使徒たちやその信奉者に敵対するうえで策略や謀略をめぐらせようとする首領や重鎮をもたらした。現実にはかれらの策略や謀略はかれらに跳ね返るものだが、無知と我欲追従のせいでかれらはそれを感じないのである。

①24 不信仰者の首領たちにアッラーがその預言者に下す印の一つがやって来ると、「アッラーが預言者たちに与えた預言者性や使徒性をわたしたちに与えてくれるまでは信じるつもりはない」と言う。アッラーはそれに返答をし、かれこそは誰が使徒になるのに相応しく、その重責を負えるかをよりよくご存知であり、預言者性や使徒性を特別に選んで与えられるのだということ明らかにされた。これらの一線を越えた者たちは真理をその高慢さで拒絶したために恥辱を得ることになり、その策略のせいで痛ましい懲罰を得るだろう。

本諸節の功德:

- 様々なものや食べ物の基本は認可であり、イスラームの教えでそれらのうち何かを禁じる典拠がない限りは、認可のままあり続けることになる。
- 宗教について自分の知らないことを語る者、あるいは自分が嘘か本当かを知らないものへと人をいざなう者は、一線を越えて己かつ人々に不義をなす者である。それはファトワー(法的な見解)を導き出す資格もないのにファトワーを出す者も然りである。
- 信者のためになることは、自分自身に留まるものではなく、他者にとってもそのよい影響が広まるものである。

فَمَنْ يُرِدِ اللَّهُ أَنْ يَهْدِيَهُ يَشْرَحْ صَدْرَهُ لِلْإِسْلَامِ وَمَنْ يُرِدْ أَنْ يُضِلَّهُ يَجْعَلْ صَدْرَهُ ضَيِّقًا حَرَجًا كَأَنَّمَا يَصْعَدُ فِي السَّمَاءِ كَذَلِكَ يَجْعَلُ اللَّهُ الرِّجْسَ عَلَى الَّذِينَ لَا يُؤْمِنُونَ ﴿١٢٥﴾ وَهَذَا صِرَاطُ رَبِّكَ مُسْتَقِيمًا فَذُكِّرْنَا الْاَيْتَ لِقَوْمٍ يَذَكِّرُونَ ﴿١٢٦﴾ لَهُمْ دَارُ السَّلَامِ عِنْدَ رَبِّهِمْ وَهُوَ وَيْلُهُمْ بِمَا كَانُوا يَعْمَلُونَ ﴿١٢٧﴾ وَيَوْمَ نَحْشُرُهُمْ جَمِيعًا يَمَعَشِرَ الْجِنِّ قَدْ أَسْتَكْتَرْتُمْ مِنَ الْإِنْسِ وَقَالَ أَوْلِيَاؤُهُمْ مِنَ الْإِنْسِ رَبَّنَا اسْتَمَعَ بَعْضُنَا لِبَعْضٍ وَوَلَعْنَا أَجَلَ الَّذِي أَجَلْت لَنَا قَالَ النَّارُ مَثَلُكُمْ خَالِدِينَ فِيهَا إِلَّا مَا شَاءَ اللَّهُ إِنَّ رَبَّكَ حَكِيمٌ عَلِيمٌ ﴿١٢٨﴾ وَكَذَلِكَ نُؤَلِّي بَعْضَ الظَّالِمِينَ بَعْضًا بِمَا كَانُوا يَكْسِبُونَ ﴿١٢٩﴾ يَمَعَشِرَ الْجِنِّ وَالْإِنْسِ أَلَمْ يَأْتِكُمْ رُسُلٌ مِنْكُمْ يَقُصُّونَ عَلَيْكُمْ آيَاتِي وَيُنذِرُونَكُمْ لِقَاءَ يَوْمِكُمْ هَذَا قَالُوا شَهِدْنَا عَلَى أَنْفُسِنَا وَعَدَّوْهُمْ الْحَيَاةَ الدُّنْيَا وَشَهِدُوا عَلَى أَنْفُسِهِمْ أَنَّهُمْ كَانُوا كَافِرِينَ ﴿١٣٠﴾

الجزء الثامن

125 アッラーが導きの道への到達を望まれる者には、その胸を広げ、イスラームを受け入れやすいようにしてください。一方、かれが辱めを与えようとし、導きの道へ到達できないようにされた者には、真理の受け入れに対してその胸を激しく狭められ、人間が自分で天へと昇っていくことなどできないように、真理が心に入らないようにされるのである。アッラーがこうした激しい胸の窮屈さを迷った者にもたらされるように、かれを信じない者には懲罰をもたらされるのである。

126 使徒よ、われらがあなたのために定めたこの宗教こそが、まっすぐなアッラーの道なのである。自覚と理解のある、アッラーについて認識する者にわれらは様々な印を明らかにした。

127 かれらには嫌なもの全てから安んじていられる家、すなわち天国がある。アッラーこそがかれらの行っていた善行への報奨としてかれらを助けてくださり、支援してくださる御方なのである。

128 使徒よ、アッラーが人間とジンの両世界の住人を蘇らせ、仰せられる日のことを思うがよい。「ジンの集団よ、あなたがたは何度も人間を惑わし、アッラーの道を妨害した。」すると人間でかれらに従ってきた者たちが主に答えて言う。「わたしたちの主よ、わたしたちはお互いにそれぞれの友で楽しい思いをしました。ジンは人間に従われることで楽しい思いをし、人間は欲望を満たすことで楽しい思いをしました。そうしてあなたが先延ばししてくださった寿命に達し、こうして復活の日にあるというわけです。」アッラーは仰せられた。「地獄の業火があなたがたの永遠の住まいである。墓よりの復活から地獄へ連行されるまでの期間は別であり、その期間だけはかれらが地獄の業火に永遠にいななければならない期間からアッラーが取り除かれよう。」使徒よ、本当にあなたの主はその定めと計画において英明な御方であり、僕たち全員かつその中でも懲罰に相応しい者をよく知る御方である。

129 ジンの中でも反抗的な輩をある人間と仲良くさせ、惑わせようと支配下に置いたように、不義をなす者全てに不義なす者を仲良くさせ、悪行を勧めさせ、善行から遠ざけ、善行には無関心にさせるだろう。かれらが稼いだ違反行為への報いとしてのことである。

130 復活の日にわれらは言うだろう。「人間とジンの集団よ、あなたがたにあなたがたの同類～人間に対して～である使徒たちがやって来なかったか。かれらはあなたがたにアッラーから下されたものを読み上げ、この日という復活の日の対面で脅かしはしなかったか。」かれらは答えて言う。「そのとおりです。今日、わたしたちはあなたの使徒たちが確かに伝えるべきことを伝えたのを認め、この日の対面を認めますが、あなたの使徒たちをわたしたちは否定し、この日の対面を否定してしまいました。」華美で絢爛かつ刹那的な恩恵といったこの世の生活に騙され、生前かれらはアッラーとその使徒を信じない者であったことを自ら認めたが、時を逸したこの承認も信仰も、もはや役には立たないのである。

本諸節の功德:

- 迷いと導きは、それを創造し、存在せしめることにおいてアッラーの御許からのものである、というアッラーの摂理。アッラーのご意志があった後での選択という僕(訳者注:人間)の行いである。
- 信者の善行に応じたアッラーの援助。善行が増せば増すほど援助は増し、その逆もまた然りである。
- 不義をなす者全てに同じような不義なす者を仲良くさせ、悪行を奨励し、善行から遠ざけ、善行には無関心にさせてしまうのは、アッラーの摂理の一つである。

ذَلِكَ أَنْ لَمْ يَكُنْ رَبُّكَ مُهْلِكَ الْقُرَى بِظُلْمٍ وَأَهْلُهَا
 غَافِلُونَ ﴿١٤١﴾ وَلِكُلِّ دَرَجَةٍ مِمَّا عَمِلُوا وَمَا رَبُّكَ
 بِغَافِلٍ عَمَّا يَعْمَلُونَ ﴿١٤٢﴾ وَرَبُّكَ الْغَنِيُّ ذُو الرَّحْمَةِ
 إِنْ يَشَاءُ يُدْهِبْكُمْ وَيَسْتَخْلِفْ مِنْ بَعْدِكُمْ مَنْ
 يَشَاءُ كَمَا أَنْشَأَكُمْ مِنْ ذُرِّيَةِ قَوْمٍ آخَرِينَ ﴿١٤٣﴾
 إِنَّ مَا تُوَعَّدُونَ لَأَيُّهَا وَمَا أَنْتُمْ بِمُعْجِزِينَ ﴿١٤٤﴾ قُلْ يَتَقَوْمِ
 أَعْمَلُوا عَلَىٰ مَكَانَتِكُمْ إِنِّي عَامِلٌ فَسَوْفَ تَعْلَمُونَ ﴿١٤٥﴾
 مَنْ تَكُونُ لَهُ وَعَقِبَةُ الدَّارِ إِنَّهُ لَا يُفْلِحُ الظَّالِمُونَ ﴿١٤٦﴾
 وَجَعَلُوا لِلَّهِ مِمَّا ذَرَأَ مِنَ الْحَرْثِ وَالْأَنْعَامِ نَصِيبًا
 فَقَالُوا هَذَا لِلَّهِ بِرِعْمِهِمْ وَهَذَا لِلشَّرْكِاءِ إِنَّمَا كَانَ
 لِشُرْكَائِهِمْ فَلَا يَصِلُ إِلَى اللَّهِ وَمَا كَانَ لِلَّهِ فَهُوَ
 يَصِلُ إِلَى شُرْكَائِهِمْ سَاءَ مَا يَحْكُمُونَ ﴿١٤٧﴾ وَكَذَلِكَ
 زَيْنَ لِكَثِيرٍ مِنَ الْمُشْرِكِينَ قَتَلَ أَوْلَادِهِمْ
 شُرْكَاءُؤُهُمْ لِيُرِدُّوهُمْ وَيَلْبِسُوا عَلَيْهِمْ دِينَهُمْ
 وَلَوْ شَاءَ اللَّهُ مَا فَعَلُوهُ فَذَرْهُمْ وَمَا يَفْتَرُونَ ﴿١٤٨﴾

使徒が勝つことは、この世でもあの世でもないのである。むしろかれらの結末は、たとえこの世でかれらが楽しむことがあったとしても、損失なのだ。

⑬④ 多神教徒は逸脱した道を編み出し、かれが造った農作物や家畜の一部をアッラーに捧げるべきものとし、別の一部をかれらの偶像のためのものとした。かれらが自分たちの仲間に捧げるものは、アッラーがあるべき使い道として定めた貧者ら寄付の対象に届くことなく、かれらがアッラーに捧げるものはかれらの仲間である偶像のために使われる。かれらの規定と分与のなんとひどいことだろうか。

⑬⑤ 悪魔がこの野蛮な規定を多神教徒のために美化したように、多くの多神教徒にその仲間の悪魔たちを美化し、貧困を恐れて自分たちの子供を殺させた。正当な理由なしに殺害することを禁じられた殺人を犯すことで、かれらを滅ぼすためである。また、かれらの宗教を混同させ、何が合法で何がそうでないかをわからなくさせるためである。万が一アッラーがそうしないことを望まれたならば、かれらはそんなことをしなかっただろう。しかしながらかれはそれを深い英知があつて望まれたのである。だから使徒よ、これらの多神教徒のアッラーに対する嘘は放っておきなさい。それがあなたを害することはない。アッラーにお任せしなさい。

本諸節の功德:

- 被造物の行いにおける善行や悪行の程度の違いは、その報奨や罰の程度の違いを必ずもたらす。
- 悪魔に従うことは、人殺しやアッラーと他の偶像を等しいものとするといった醜行を正当化するほどに天性を歪めてしまうことになる。

⑬① その弁明は、使徒が遣わされておらず、伝教も到達していなければ、人間とジンの誰も自分が行ったことで罰せられることはないというものであり、どんな共同体であれ使徒が派遣されるまではわれらが罰することはないのである。

⑬② 行いに応じて位階は異なる。善行をなす者への報奨が等しいことはないように、数多くの悪行を犯した者が少ししか犯していない者と等しいことはない。従う者と従われる者が等しいこともない。あなたの主はかれらが行っていたことに不注意であったことはなく、かれはしかと見ておられ、かれにとって不鮮明なものは何一つなく、行いに応じて報いられる。

⑬③ 使徒よ、あなたの主は満ち足りた御方であり、僕たちを必要とすることも、かれらの信仰行為を必要とすることもない。また、かれらの不信仰がかれを害することもない。かれはかれらを必要とはしておらず、慈悲深い御方である。罪深い僕たちよ、もしかれがお望みになれば、あなたがたを懲罰で殲滅(せんめつ)させることもできる。以前にいた別の民族の子孫からあなたがたを創造したように、あなたがたの破滅の後、かれに従う信者たちの中でお望みの者をあらしめることもできるのである。

⑬④ 不信仰者よ、約束の蘇生と復活、清算と懲罰は必ずやって来る。あなたがたの主から逃げ切ることはず、かれはあなたがたの前髪を掴んで罰するのである。

⑬⑤ 使徒よ、言いなさい。「人々よ、不信仰と迷いにある、ありのままのあなたがたでいるとよいでしょう。もうわたしは何度も言い訳を与え、明白な伝達で証拠を立ててきました。だからもうあなたがたの不信仰や迷いに気を揉むことはありません。むしろこのままわたしは、わたしの歩む真理の上にあり続けます。やがてあなたがたは知るでしょう。この世での勝利が誰に与えられ、誰が大地を受け継ぎ、誰のためにあの世があることになるかを。」多神教徒

وَقَالُوا هَذِهِ أَنْعَامٌ وَحَرْتُ حِجْرًا لَا يَطْعَمُهَا إِلَّا مَنْ نَشَاءُ
 بِرَعْمِهِمْ وَأَنْعَامٌ حُرِّمَتْ ظُهُورُهَا وَأَنْعَامٌ لَا يَذْكُرُونَ
 أَسْمَاءَ اللَّهِ عَلَيْهَا افْتِرَاءٌ عَلَيْهِ سَيَجْزِيهِمْ بِمَا كَانُوا
 يَفْعَلُونَ ﴿١٣٨﴾ وَقَالُوا مَا فِي بُطُونِ هَذِهِ الْأَنْعَامِ خَالِصَةٌ
 لِّذُكُورِنَا وَمُحَرَّمٌ عَلَىٰ أَزْوَاجِنَا وَإِنْ يَكُن مِّمَّنَّ
 فَهُمْ فِيهِ شُرَكَاءُ سَيَجْزِيهِمْ وَصَفِهِمْ إِنَّهُ وَحَكِيمٌ
 عَلِيمٌ ﴿١٣٩﴾ قَدْ خَسِرَ الَّذِينَ قَتَلُوا أَوْلَادَهُمْ سَفَهًا بِغَيْرِ
 عِلْمٍ وَحَرَّمُوا مَا رَزَقَهُمُ اللَّهُ افْتِرَاءً عَلَى اللَّهِ قَدْ ضَلُّوا
 وَمَا كَانُوا مُهْتَدِينَ ﴿١٤٠﴾ * وَهُوَ الَّذِي أَنْشَأَ جَنَّاتٍ
 مَّعْرُوشَاتٍ وَغَيْرَ مَعْرُوشَاتٍ وَالنَّخْلَ وَالزَّرْعَ مُخْتَلِفًا
 أَكْثَرُهُ وَالزَّيْتُونَ وَالرِّمَانَ مُتَشَابِهًا وَغَيْرَ مُتَشَابِهٍ
 كُلُوا مِنْ ثَمَرِهِ إِذَا أَثْمَرَ وَآذُوا أَحْقَقَهُ يَوْمَ حَصَادِهِ
 وَلَا تُسْرِفُوا إِنَّهُ لَا يُحِبُّ الْمُسْرِفِينَ ﴿١٤١﴾ وَمِنَ الْأَنْعَامِ
 حَمُولَةٌ وَفَرَشَاتٌ كُلُوا مِمَّا رَزَقَكُمُ اللَّهُ وَلَا تَتَّبِعُوا
 خُطُوَاتِ الشَّيْطَانِ إِنَّهُ لَكُمْ عَدُوٌّ مُّبِينٌ ﴿١٤٢﴾

سورة
الأنعام
١٥

138 多神教徒は言う。「これらの家畜や農作物は禁じられていて、かれらが思い込みと嘘で望むところの偶像の奉仕者だけが食べてよいものである。これらの家畜の背中や神聖にして犯してはならないものだから乗ってはならず、荷物を載せてもならない。」それはバヒーラ(ある数の子を産むと耳の切られるラクダ、サーイバ(ある年齢に達すると偶像のために放置されるラクダ、ハーミー(何頭か子どものできたラクダのことであり、これらの家畜は屠殺の際にアッラーの御名が唱えられることはなく、かれらの偶像の名で屠殺される。かれらはそれら全てがアッラーの御許からもたらされたものだ)と嘘をついたのであり、アッラーはかれらがついていた嘘のせいで懲罰をもって報いられるだろう。

139 かれらは言う。「サーイバやバヒーラのお腹の子で、生きて産まれてきたものはわたしたちの男には許されているが、女には禁じられている。死んで産まれてきたものは男も女もその扱いは同じである。至高のアッラーはかれらのこの言葉に対して相応しいものを報いるだろう。かれはその教えとその被造物の諸事を司るうえで英明かつ全知なる御方である。

140 自分たちの子供を理性の軽さと無知のために殺してしまい、アッラーが恵んでくださった家畜を嘘でアッラーに結び付けて禁じた者たちは確かに滅び、まっすぐな道からは遠ざかってしまい、導かれることはなくなりました。

141 完全なアッラーこそは庭園を大地に茎なしで広がるもの、茎ありで背の高いものとして創造された御方であり、ナツメヤシや農作物の実を形や味の異なるものとして創った御方である。またかれこそはオリーブとザクロを葉は似ていても味は異なるものとして創った御方である。人々よ、その実が実ったときにはそれを食べ、収穫のときにはその定め(ザカー)を払いなさい。食べることや費やすことにおいてイスラームの教えで定められた境界線を越えてはならない。アッラーはその境界線を越える者を好まれないどころか、むしろ憎まれるのである。それら全てを創った御方であるかれこそがその僕たちに許可するのであって、多神教徒が禁じてよいものではない。

142 かれこそは家畜を育て、大人のラクダのようにその上に乗ってよいものや子供のラクダや羊のように乗るのに相応しくないものをもたらされた。人々よ、アッラーが与えてくださった糧のうち、かれが許されたものを食べなさい。多神教徒がするようにアッラーが禁じたものを許可し、許可したものを禁じることで悪魔の歩みに従ってはならない。人々よ、悪魔は明らかな敵であり、あなたがたがアッラーに背くの望んでいるのである。

本諸節の功德:

- アッラーは多神教徒を七つの特徴で非難しておられる。損失、愚かさ、知識の欠如、アッラーが恵んでくださったものを禁じること、アッラーに対して嘘をでっちあげること、迷妄さ、導きを求めようとしないことである。これらが七つの事柄ではあるが、そのそれぞれが一つでも非難に値することに他ならない。
- 我欲がアッラーの許可したものを禁じ、アッラーの禁じたものを許可する原因である。
- 農作物や果物の収穫時には定め(ザカー)を払う義務がある。ただし、施す前にそれらを食べるのは許されており、それが施しから差し引かれることはない。
- 食事や支出において無駄遣いしないで、よいものを楽しむこと。

ثَمَانِيَةَ أَرْوَاحٍ مِّنَ الضَّيَّانِ اثْنَتَيْنِ وَمِنَ الْمَعْنِ اثْنَيْنِ
 قُلْ ءَالِدَ الذَّكَرَيْنِ حَرَّمَ أَمِ الْإُنثَيْنِ أَمَا اشْتَمَلَتْ عَلَيْهِ
 أَرْحَامُ الْإُنثَيْنِ نَبِّئُونِي بِعِلْمٍ إِن كُنْتُمْ صَادِقِينَ ﴿١٤٧﴾
 وَمِنَ الْإِبِلِ اثْنَيْنِ وَمِنَ الْبَقَرِ اثْنَيْنِ قُلْ ءَالِدَ الذَّكَرَيْنِ
 حَرَّمَ أَمِ الْإُنثَيْنِ أَمَا اشْتَمَلَتْ عَلَيْهِ أَرْحَامُ الْإُنثَيْنِ
 أَمْ كُنْتُمْ شُهَدَاءَ إِذْ وَصَّكُمْ اللَّهُ بِهَذَا فَمَن
 أَظْلَمُ مِمَّنِ افْتَرَى عَلَى اللَّهِ كَذِبًا لِيُضِلَّ النَّاسَ بِغَيْرِ
 عِلْمٍ إِنَّ اللَّهَ لَا يَهْدِي الْقَوْمَ الظَّالِمِينَ ﴿١٤٨﴾ قُلْ لَا أَجِدُ
 فِي مَا أُوحِيَ إِلَيَّ مُحَرَّمًا عَلَى طَاعِمٍ يَطْعَمُهُ إِلَّا أَنْ يَكُونَ
 مَيْتَةً أَوْ دَمًا مَّسْفُوحًا أَوْ لَحْمَ خِنْزِيرٍ فَإِنَّهُ رِجْسٌ أَوْ
 فِسْقًا أَهْلًا لِّغَيْرِ اللَّهِ بِهِ فَمَن اضْطَرَّ عَلَيْهِ بِبَاغٍ وَلَا عَادٍ
 فَإِنَّ رَبَّكَ غَفُورٌ رَّحِيمٌ ﴿١٤٩﴾ وَعَلَى الَّذِينَ هَادُوا حَرَّمْنَا
 كُلَّ ذِي ظُفْرٍ وَمِنَ الْبَقَرِ وَالْغَنَمِ حَرَّمْنَا عَلَيْهِمْ
 شُحُومَهُمَا إِلَّا مَا حَمَلَتْ ظُهُورُهُمَا أَوِ الْحَوَايَا أَوْ مَا اخْتَلَطَ
 بِعَظْمٍ ذَلِكَ جَزَيْنَاهُمْ بِبَعْضِهِمْ وَإِنَّا صَادِقُونَ ﴿١٥٠﴾

147)かれはあなたがたのために八つの種を創造された。羊のオスとメス、ヤギのオスとメスである。使徒よ、多神教徒に言いなさい。「果たして至高のアッラーはそれらのうちのオスをオスだから禁じられたのでしょうか」と。もしかしたら、「そのとおり」と言えば、かれらに言いなさい。「なぜメスを禁じるのですか。あるいはかれはメスをメスだから禁じられたのでしょうか」と。もしかしたら、「そのとおり」と言えば、かれらに言いなさい。「なぜオスを禁じるのですか。あるいはかれはメスの胎内にあるものをメスの胎内にあるものだから禁じられたのでしょうか」と。もしかしたら、「そのとおり」と言えば、かれらに言いなさい。「なぜ同じ胎内にあるものでありながら、時にはオスを禁じ、時にはメスを禁じて区別するのですか。多神教徒の皆さん、もしそうした禁止はアッラーからのものであるというあなたがたの主張が誠実なものであるなら、どんな正しい知識に依っているのかを教えてください」と。

148)八つの種の残りは、ラクダのオスとメス、牛のオスとメスである。使徒よ、多神教徒に言いなさい。「アッラーがオスだから禁じ、あるいはメスだから禁じ、あるいは胎内にあるものだから禁じたのでしょうか。あるいは多神教徒の皆さん、あなたがたがこれらの家畜を禁じるのにアッラーが禁止を命じられるその場に居合わせたとも言うのですか」と。依って立つ正しい知識もなく、人をまっすぐな道から迷わせるために、アッラーに対して嘘をでっちあげ、禁じられていないものを禁じるのにかれの名を騙る者以上に大きな不義をなし、大きな罪を犯す者はいないのである。本当にアッラーは不義をなす者を、アッラーに対する嘘のせいで導きへ到達させられることはない。

149)使徒よ、言いなさい。「清めなしに死んでしまったか、流れる血か、豚肉といった不浄で禁じられたものか、偶像に捧げられたもののようにアッラーの御名以外によって屠殺されたもののほかに、アッラーがわたしに啓示さ

れたもので禁じられたものを見つけることはできません」と。必要性に迫られ、食べて楽しむうとしてではなく、必要な分を越えることなしに空腹のあまりこれらの禁じられたものを食べたとしても、罪はない。使徒よ、本当にあなたの主は必要に迫られた人がそれを食べたとしてもよく赦してくださる、慈悲深い御方である。

こうしてアッラーは共同体に対して禁じられたものを述べられると、ユダヤ教徒に禁じられたものを述べられ、多神教徒の家畜禁止はアッラーの御許から来たものに依ってはならず、ただ単に悪魔が命じることに従っているだけなのを明らかにすべく仰せられる。

149)われらがユダヤ教徒に禁じたのは、ラクダやダチョウのように足指の分かれていないものや、背中に引っかけられたものや腸の運ぶもの、お尻や尻尾のように骨と混ざったもの以外の牛や羊の脂であり、われらはかれらの不正に対してそれらを禁じることで報いた。われらが知らせることは真実である。

本諸節の功德:

- 諸節には知識に関することでの議論を正当化し、観察と類推の意義を正当化する根拠がある。
- 啓示とそれから導き出されることがハラール(許されたもの)とハラーム(禁じられたもの)を知る方法である。
- 宗教的な見解を出すときには、誰であれその回答がアッラーのお喜びにかなう正しいものだという思いが勝らないかぎりには不正なこととなる。
- 必要不可欠なときには禁じられたものであれ摂取してよいと僕たちに許可を与えられたのは、アッラーのお慈悲の一つである。

فَإِنْ كَذَّبُوكَ فَقُلْ رَبُّكُمْ ذُو رَحْمَةٍ وَاسِعَةٍ وَلَا يُرَدُّ بَأْسُهُ عَنِ الْقَوْمِ الْمُجْرِمِينَ ﴿١٤٧﴾ سَيَقُولُ الَّذِينَ أَشْرَكُوا لَوْ شَاءَ اللَّهُ مَا أَشْرَكْنَا وَلَا آبَاؤُنَا وَلَا حَمَمًا مِنْ شَيْءٍ كَذَلِكَ كَذَّبَ الَّذِينَ مِنْ قَبْلِهِمْ حَتَّىٰ ذَاقُوا بَأْسَنَا قُلْ هَلْ عِنْدَكُمْ مِنْ عِلْمٍ فَتُخْرِجُوهُ لَنَا إِنْ تَتَّبِعُونَ إِلَّا الظَّنَّ وَإِنْ أَنْتُمْ إِلَّا تَخْرُصُونَ ﴿١٤٨﴾ قُلْ فَلِلَّهِ الْحُجَّةُ الْبَالِغَةُ فَلَوْ شَاءَ لَهَدَيْتُكُمْ أَجْمَعِينَ ﴿١٤٩﴾ قُلْ هَلُمْ شُهَدَاءُ كُمُ الَّذِينَ يَشْهَدُونَ أَنَّ اللَّهَ حَرَّمَ هَذَا إِنْ شَهِدُوا فَلَا تَشْهَدُ مَعَهُمْ وَلَا تَتَّبِعِ أَهْوَاءَ الَّذِينَ كَذَّبُوا بِآيَاتِنَا وَالَّذِينَ لَا يُؤْمِنُونَ بِالْآخِرَةِ وَهُمْ بِرَبِّهِمْ يَعْدِلُونَ ﴿١٥٠﴾ قُلْ تَعَالَوْا أَتْلُ مَا حَرَّمَ رَبِّي عَلَيْكُمْ أَلَّا تُشْرِكُوا بِهِ شَيْئًا وَبِالْوَالِدَيْنِ إِحْسَانًا وَلَا تَقْتُلُوا أَوْلَادَكُمْ مِمَّنْ إِمْلَاقٍ مَن تَزْرُقُكُمْ وَيَأْسَاهُمْ وَلَا تَقْرَبُوا الْفَوَاحِشَ مَا ظَهَرَ مِنْهَا وَمَا بَطُنَ وَلَا تَقْتُلُوا النَّفْسَ الَّتِي حَرَّمَ اللَّهُ إِلَّا بِالْحَقِّ ذَٰلِكُمْ وَصَّيْتُكُمْ بِهِ لَعَلَّكُمْ تَعْقِلُونَ ﴿١٥١﴾

الجزء الثامن

147 使徒よ、もしかれらがあなたを否定し、あなたが主からもたらしたものを信じないなら、かれらをやる気にさせるべく言いなさい。「あなたがたの主は広大な慈悲の持ち主です。そのお慈悲の一つが、あなたがたのために猶予を与えられ、懲罰で急かしはしないことです」と。また、かれらに警告を伝えるべく言いなさい。「本当にかれの懲罰は違反行為や罪を犯す民から返されることはない(訳者注:民に必ず起こる)のです」と。

148 多神教徒はアッラーのご意志と定めを根拠としながら、かれらがアッラーに別のものを並べ立てる正当性を主張して言うだろう。「万が一アッラーがわたしたちにもわたしたちの父祖にも多神崇拝をしないように望まれたなら、わたしたちは多神崇拝をしなかっただろう。また万が一アッラーがわたしたちの禁じたものを自分自身で禁じることのないように望まれたなら、わたしたちはそれを禁じなかっただろう。」かれらの虚偽の証明のように、以前の者たちも使徒たちを嘘と否定して言う。「万が一アッラーがわたしたちにかれらを嘘と否定しないように望まれたなら、わたしたちがかれらを嘘と否定することはなかっただろう。」われらがかれらに対して下した懲罰をいざ味わうまで、かれらはこの否定を続けたのである。使徒よ、多神教徒に言いなさい。「あなたがたのもとに、あなたがたがアッラーに同位者を並べ立て、かれが禁じたものを許可し、許可したものを禁じることにアッラーが満足しておられるのを示す証拠はありますか」と。単にそれが生じることがかれの満足を示すのではないのである。あなたがたは思い込みに従っているだけで、思い込みが真実を前に意味を持つことはない。あなたがたは嘘をついているだけなのである。

149 使徒よ、多神教徒に言いなさい。「もしあなたがたにこうした脆い証拠しかないのなら、アッラーにはあなたがたの言い訳を断ち切り、あなたがたのこだわっている疑念を無効にする証拠があるのです。多神教徒の皆さん、万が一アッラーがあなたがたを真理へ到達させることを望まれたなら、あなたがたを成功させてくださったでしょう」と。

150 使徒よ、アッラーの許可されたものを禁じ、アッラーこそがそれを禁じられたと唱える多神教徒に言いなさい。「あなたがたが禁じたこれらのものをアッラーが禁じたことを証言する証人を連れて来てください」と。使徒よ、そうしてかれらが知識なしにアッラーがそれを禁じたということ証言したなら、かれらの証言を信じてはならない。嘘の証言だからである。我欲に突き動かされている者の我欲に従ってはならない。アッラーが許したものを禁じることでわれらの印を嘘と否定したのである。あの世を信じない者に従ってはならない。かれらは自分たちの主に別の存在を等しく並べ立てていて、自分の主との道がこれである者がいかにして従わようか。

151 使徒よ、人々に言いなさい。「来てください。あなたがたにアッラーが禁じられたものを読み上げましょう。かれの創ったものうち、何であれかれに等しい存在として並べ立てること、親不孝をすること。むしろ親には真心を尽くすことが義務付けられます。貧困を理由に子供たちを殺してしまうことです」と。イスラーム以前の無明時代の民がしていたように、である。われらがあなたがたに糧を与え、かれらにも糧を与える。また、あからさまに、あるいはこっそりと、淫らな行いに近づくことを禁じられた。また、結婚で貞節を守られた後で姦淫を犯すことや、イスラーム入信の後で背教することのように、正当な理由なしにアッラーの禁じた生命を殺害することを禁じられた。これらをかれはあなたがたに託けた。きつとあなたがたはそこにご命令と禁止でアッラーについて理解するだろう。

本諸節の功德:

- アッラーの怒りに達する罪への警告。かれがお望みになれば、罪を犯す民からそのお怒りを返すことはないからである。
- アッラーが全ての被造物に能力と意志を与えられ、それらを通して責任能力を負わされたことを、できるのにしないで後から宿命と定命による弁明をしようとすることは、完全な不正であり、単純な頑固さである。
- 諸節が示すには、僕の理性に応じてアッラーが命じられたことの実践はある。
- 淫らな行いに近づくのを禁じることは、ただ単にその行為を禁じるよりもさらに強い禁止であり、この禁止はそうした行いの前置きやそれへと至る手段を含むのである。

وَلَا تَقْرَبُوا مَالَ الْيَتِيمِ إِلَّا بِالَّتِي هِيَ أَحْسَنُ حَتَّىٰ يَبْلُغَ أَشُدَّهُ ۗ
 وَأَوْفُوا بِالْعَيْلِ وَالْزِينِ وَالْقِسْطَ ۗ لَٰنْ كَفَّ نَفْسًا إِلَّا
 وُسْعَهَا ۗ وَإِذْ قُلْتُمْ قَاعِدُوا لَوَٰكِبَاتٍ ذَٰقُرْبَىٰ ۗ وَيَعْمَدُ
 اللَّهُ أَوْفُوا ذَٰلِكُمْ وَصَّدِّكُمْ بِهِ ۗ لَعَلَّكُمْ تَذَكَّرُونَ ﴿١٥٦﴾
 وَأَنَّ هَٰذَا صِرَاطِي مُسْتَقِيمًا فَاتَّبِعُوهُ ۗ وَلَا تَتَّبِعُوا السُّبُلَ
 فَتَفْرَقَ بِكُمْ عَنْ سَبِيلِهِ ۗ ذَٰلِكُمْ وَصَّيْتُكُمْ بِهِ ۗ لَعَلَّكُمْ
 تَتَّقُونَ ﴿١٥٧﴾ ثُمَّ آتَيْنَا مُوسَىٰ الْكِتَابَ تَمَامًا عَلَىٰ الَّذِي
 أَحْسَنَ وَتَفْصِيلًا لِّكُلِّ شَيْءٍ ۗ وَهَدَىٰ وَرَحْمَةً لَّعَلَّهُمْ بِلِقَاءِ
 رَبِّهِمْ يُؤْمِنُونَ ﴿١٥٨﴾ وَهَٰذَا كِتَابٌ أَنْزَلْنَاهُ مُبَارَكًا فَاتَّبِعُوهُ
 وَاتَّقُوا لَعَلَّكُمْ تُرْحَمُونَ ﴿١٥٩﴾ أَن تَقُولُوا إِنَّمَا أُنزِلَ
 الْكِتَابُ عَلَىٰ طَائِفَتَيْنِ مِن قَبْلِنَا وَإِن كُنَّا عَن دِرَاسَتِهِمْ لَغَافِلِينَ
 ﴿١٦٠﴾ أَوْ تَقُولُوا لَوْلَا أُنزِلَ عَلَيْنَا الْكِتَابُ لَكُنَّا أَهْدَىٰ
 مِنْهُمْ ۗ فَقَدْ جَاءَكُمْ بَيِّنَةٌ مِّن رَّبِّكُمْ وَهَدَىٰ وَرَحْمَةً
 فَمَن أَظْلَمُ مِمَّن كَذَّبَ بِآيَاتِ اللَّهِ وَصَدَفَ عَنْهَا سَبَجْرَىٰ الَّذِينَ
 يَصْدِفُونَ عَن آيَاتِنَا سُوءَ الْعَذَابِ بِمَا كَانُوا يَصْدِفُونَ ﴿١٦١﴾

①⑤⑥ また、孤児～身体的な成人になる前に父親を亡くした者～の財産に手を付けることを禁じられた。ただ、その子にとって役立ち、成長して一人前となるまでにその財産を増やすことでなら別である。また、計量器や秤でのごまかしも禁じられた。売買においては、得ることも与えることも公平にしなければならない。**われら**は誰であれ、できることしか責任として課すことはない。よって計量の増減を注意しきれないものについては、お咎めなしである。また、情報の伝達や証言においては、正しくないことを述べてはならない。近親者や友人への鼻息なしに、である。また、もしあなたがたがアッラーと誓約をしたとき、あるいはアッラーに誓って誓約をしたときは、アッラーとの誓約を破ってはならない。それに忠実でなければならない。これら言及されたことが、自分たちの行く末についてあなたがたが思いを馳せてくれるようお願いしつつ、アッラーがあなたがたに命じられたことである。

①⑤⑦ また、様々な迷妄の道に従うことも禁じられた。まっすぐなアッラーの道に従わなければならない。迷妄の道は分裂と真理の道からの遠ざかりをもたらすだけである。まっすぐなアッラーの道に従うことこそ、**かれ**の命じたことを実践し、禁じたことを避けることであなたがたがアッラーを意識してくれるようお願いしつつ、アッラーがあなたがたに託けられたことである。

①⑤⑧ それから前述の知らせの後、ムーサーに恩恵を完遂し、その誠意を尽くした行いへの報奨として、宗教において必要な事柄を全て明白にするものとして、真理と慈悲の証拠として、復活の日に主とお会いすることを信じてそのために善行で備えるようお願いしつつ、**われら**は律法書を与えた。

①⑤⑨ このクルアーンは多くの恩寵を持つものとして**われら**が下した書であり、実生活的かつ宗教的な利益を内包するものである。あなたがたが慈悲にあずかれるよう、そこに下されたものに従い、違反しないように注意せよ。

①⑤⑥ アラブの多神教徒よ、「わたしたち以前のユダヤ教徒やキリスト教徒に律法書や福音書をアッラーは下されたのに、わたしたちには啓典が下されなかった。わたしたちにはかれらの言葉で書かれている、かれらの啓典の読み方がわからない。わたしたちの言葉ではないのだから」と言わないように、である。

①⑤⑦ 「もしアッラーがユダヤ教徒やキリスト教徒に下されたようにわたしたちにも啓典を下されたならば、わたしたちはかれらよりも公正な者となっただろう」と言わないように、アッラーがあなたがたの預言者ムハンマドにあなたがたの言葉で下した書がやって来た。それは明らかな証拠かつ真理への正しい導きにして、共同体にとっての慈悲であり、偽りの理由で根拠のない言い訳をしてはならない。アッラーの様々な印を嘘と否定してそれから背を向ける者以上に大きな不正をなす者は一人としていないのである。**われら**の印に背を向ける者には、その離反への報いとして、地獄の業火に入れるという痛ましい懲罰をもって罰するだろう。

本諸節の功德:

- 孤児の財産に手を付けるのはその子のためになること以外では許されず、一人前の成人(訳者注:イスラームでは第二次性徴により身体的に成人になることで成人とみなされる)になるまではその子自身に財産が手渡されることはない。
- 迷妄の道は様々である。アッラーの道だけが懲罰からの救済へつながる。
- この啓典(訳者注:クルアーン)に知識と行いにおいて従うことがアッラーのお慈悲を得る最大のきっかけとなる。

هَلْ يَنْظُرُونَ إِلَّا أَنْ تَأْتِيَهُمُ الْمَلَائِكَةُ أَوْ يَأْتِيَ رَبُّكَ أَوْ يَأْتِيَ بَعْضُ
 آيَاتِ رَبِّكَ يَوْمَ يَأْتِي بَعْضُ آيَاتِ رَبِّكَ لَا يَنْفَعُ نَفْسًا إِيْمَانُهَا
 لَمْ تَكُنْ ءَامَنَتْ مِنْ قَبْلُ أَوْ كَسَبَتْ فِي إِيمَانِهَا خَيْرًا قُلْ أَنْتَظِرُونَ
 إِنَّا مُنْتَظِرُونَ ﴿١٥٨﴾ إِنَّا الَّذِينَ فَرَقُوا دِيْنَهُمْ وَكَانُوا شُرَكَاءَ لِمَا
 مَنَّهُمْ فِي شَيْءٍ إِنَّمَا أَمْرُهُمْ إِلَى اللَّهِ ثُمَّ يُنَبِّئُهُم بِمَا كَانُوا يَفْعَلُونَ
 ﴿١٥٩﴾ مَنْ جَاءَ بِالْحَسَنَةِ فَلَهُ عَشْرَ أَمْثَالِهَا وَمَنْ جَاءَ بِالسَّيِّئَةِ
 فَلَا يُجْزَى إِلَّا مِثْلَهَا وَهُمْ لَا يُظْلَمُونَ ﴿١٦٠﴾ قُلْ إِنِّي هَدَىٰ رَبِّي
 إِلَى صِرَاطٍ مُسْتَقِيمٍ دِيْنًا قِيمًا مِثْلَ إِبْرَاهِيمَ حَنِيفًا وَمَا كَانَ
 مِنَ الْمُشْرِكِينَ ﴿١٦١﴾ قُلْ إِن صَلَاتِي وَنُسُكِي وَمَحْيَايَ وَمَمَاتِي لِلَّهِ
 رَبِّ الْعَالَمِينَ ﴿١٦٢﴾ لَا شَرِيكَ لَهُ وَبِذَلِكَ أُمِرْتُ وَأَنَا أَوَّلُ الْمُسْلِمِينَ
 ﴿١٦٣﴾ قُلْ أَغْبَرُ اللَّهُ أَيْبَىٰ رَبِّيَا وَهُوَ رَبُّ كُلِّ شَيْءٍ وَلَا تَكْسِبُ كُلُّ
 نَفْسٍ إِلَّا عَلَيْهَا وَلَا تَزِرُ وَازِرَةٌ وِزْرَ أُخْرَىٰ ثُمَّ إِلَىٰ رَبِّكُمْ
 مَرْجِعُكُمْ فَيُنَبِّئُكُمْ بِمَا كُنتُمْ فِيهَا تَخْتَفُونَ ﴿١٦٤﴾ وَهُوَ الَّذِي جَعَلَ لَكُمْ
 خَلْقَ الْأَرْضِ وَرَفَعَ بَعْضَكُمْ فَوْقَ بَعْضٍ دَرَجَاتٍ لِيَجْزِيَكُمْ فِي
 مَا آتَاكُمْ إِنَّ رَبَّكَ سَرِيعُ الْعِقَابِ وَإِنَّهُ لَغَفُورٌ رَحِيمٌ ﴿١٦٥﴾

①58 真実を拒否する人たちは、死の天使とその補佐たちが現世の命を奪うためにやって来ることを待っているだけである。あるいは、使徒よ、来世での審判の日、あなたの主が、かれらの間を裁くために来ることを。または、その時の到来を示すいくつかの印が来ることを。あなたの主のいくつかの印、例えば太陽が西から上ることなどが来る日には、不信仰者の信心は、もはや役に立たない。また以前には何も善行をしていなかった信者のすること、もはや役に立たない。使徒よ、これらの拒否する多神教徒たちに言え、これらのどれかを待っている、わたしも待っているところである。

①59 使徒よ、これらのユダヤ教徒やキリスト教徒が、自分の信仰を分裂させ、分派をなしたのは、教えの一部を取り、他の一部を残したからだ。しかしあなたはかれらとは異なり、かれらの過ちには何の関わりもない。あなたの義務はかれらに警告することである。かれらのことはアッラー次第だが、復活の日には、アッラーは現世でかれらがしてきたことを告げるとともに、それに対して報いるであろう。

①60 復活の日には、誰でも善行を持って来た人には、アッラーはそれの10倍の報奨を与える。でも悪を持って来た人には、重量や大きさがそれと同じようなものが報いとしてあるだけだ。でもそれ以上ではない。最後の審判では、善行への報奨で減じられることはないし、他方悪行への懲罰で積み増しされて不当に扱われることもない。

①61 使徒よ、これらの拒否する多神教徒たちに言え。わたしの主は自分を正しい道で、現世と来世の利益を与える信教の道に導いてくださった。それは真実に尽くすイブラヒームの教えであり、全くかれは多神教徒の仲間ではなかった。

①62 使徒よ、言いなさい。わたしの礼拝と犠牲、そしてわたしの生と死は、アッラーのためであり、その御名においてだと。それ以外ではないのだ。すべては創造の主であるアッラーだけのためであり、それについては他の誰も分掌することはできない。

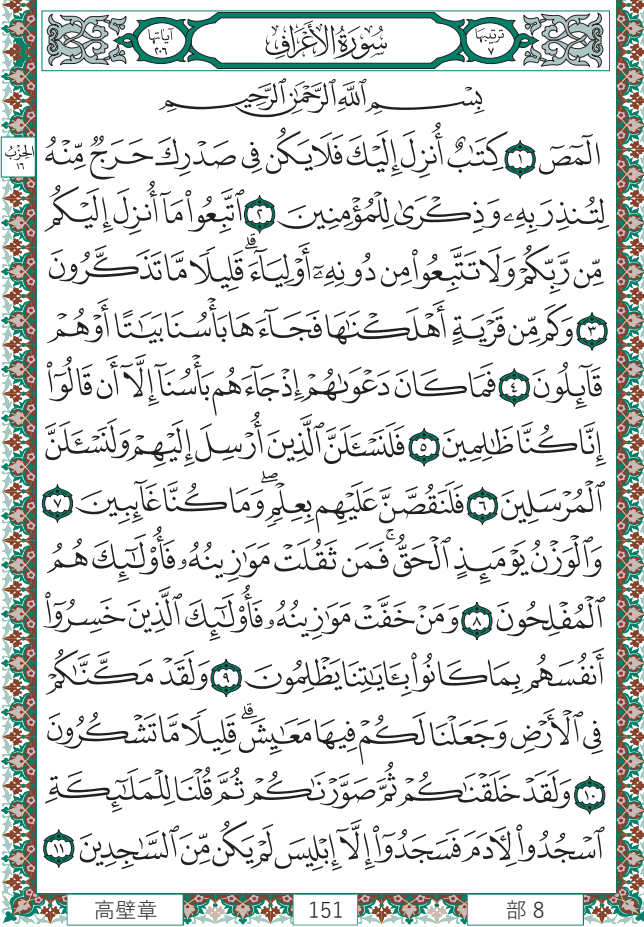
①63 至高なるかれに同位者はなく、他に崇拜されるべきものはない。アッラーは、わたしに、多神信仰のないこのような単一性を命じられた。そしてわたしは、この共同体でムスリム(アッラーに服従する者)の先駆けなのだ。

①64 使徒よ、これらの多神教徒たちに言え。かれはすべての主なのに、わたしがアッラー以外に主を求めらるうか。あなた方がそれ以外に崇拜する、すべての崇拜されるもの主なのだ。無辜な人は、他人の罪を負うことはないのだ。復活の日あなた方が帰るのは、主の元だけである。そのとき主は、あなた方が現世において教えに関して意見を異にしてきた事柄について、あなた方に知らせるだろう。

①65 かれこそは、あなた方を地上で先達から継承させられたのだ。住居を与えられ、ある人の身体を良くし、糧なども多くして、位階を他の人よりも高められた。それはあなた方に与えたものによって、あなた方を試みるためなのだ。使徒よ、主は懲罰に早く、やって来るものはすべて近いのだ。そしてかれは、僕の中で悔悟する者には実によく赦される方であり、慈悲深い方なのである。

本諸節の功德:

- 信仰は団結と連帯を命じている。そして分派と分裂を禁じている。
- 至高なる方の公正さと善意からして、悪はそれと同等なもので報い、善は10倍に増加される。これは増加でも、最小限なものである。
- 真実で正しい信仰は、僕のすべての行為と関心をアッラーに集中することを求めるものだ。その礼拝、服従の所作、儀礼、犠牲、すべての現世の善行と来世への嘆願において、かれのみに向かうべきものなのだ。



本章の趣旨:

虚偽との闘争での真理の勝利と高慢な者たちのこの世とあの世でのなれの果てを明らかにする。

説明:

① アリフ・ラーム・ミーム・サードについては、雌牛章の初めに説明の通りである。

② 使徒よ、クルアーンは、アッラーがあなたに降ろされたものだ。だからあなたはそれについて心配も疑念もいらない。それは人々に警告するためであり、証明するためである。そしてそこから受益する信者たちには、思い起こさせるためである。

③ 人々よ、あなたがたは主(アッラー)から啓示された書と預言者たちの慣行に従え。そして悪魔や悪い学者たちであなたがた擁護者だと思った人たちの欲望に従ってはいけない。かれらの後を追ひ、またしばしらの欲望に従うために、下された啓示を忘れることになるのだ。あなた方は、ほとんど留意しない。もし留意していたならば、真実以外を好むことはないし、使徒がもたらしたところによって行動し、それ以外は放置したであろう。

④ われらは不信仰と過ちに固執している、どれほど多くの町を厳しい懲罰として滅ぼしてきたことか。それはかれらが夜や昼に寝ている間に、襲いかかったのだ。かれら自身は何もできず、またかれらが言い張る神々も、かれらを守るためには何もできなかった。

⑤ 懲罰がかれらを襲ったとき、かれらはただ、本当に不信仰によって不正をしてきたと認めるだけだった。

⑥ それから復活の日、われらは使徒が遣された人々

に、使徒にどう対応したかについて質問する。また使徒たちにも、伝達するように命じられた、その伝達ぶりに関して質問する。それから人々の対応ぶりについても。

⑦ われらは、現世で人々が何をしたかについて、その知識より各自に知らせる。かれらが何をしていたかについて、すべてその知識を持っている。欠ける所はないのだ。何時であれ、かれらの所業について無関心ということはないのだ。

⑧ その審判の日の計量は、公正であり、一切の不正はない。そして善行の秤が悪行のよりも重い人は、欲しかったものを得る成功者で、恐れていたものから逃れるのだ。

⑨ また悪行の秤が善行のそれより重い人は、自分自身を損なった者だ。復活の日、かれらは、自分の言動のために破滅させられる。アッラーの印を拒否したので、そうなるのだ。

⑩ アーダムの子孫よ、われらはあなた方を地上においてしっかり定住させ、生計の道を授けた。あなた方は感謝すべきところを、ほとんど感謝しないのだ。

⑪ 人々よ、確かに地上においてわれらは、あなた方の祖であるアーダムを最善の形と姿に創造した。それから天使たちに向かって、敬意を表するためにアーダムに平伏しなさいと言った。するとかれらは、俯って平伏した。ただしイブリース(悪魔)だけはその傲慢さと強情さによって、平伏することを拒否した。

本諸節の功德:

- クルアーン啓示の一つの目的は、不信仰者と頑固者に警告し、信者に対しては想起させるためである。
- アッラーがクルアーンを信者に啓示されたのは、それによって行動するためである。そのようにすればかれらの育成は完璧となり、恩寵は全うされる。かれらは最善の言動と道徳に導かれるのである。
- 僕たちの言動を計量する審判の日において、それは正しく公平なもので、一切の不正や不当な扱いはない。
- アッラーがこの地上を人間のために創造されたのは、かれらがそれから受益するためである。さらにその上に建造し、耕作し、自らのためにそこから受益するためである。

قَالَ مَا مَنَّكَ إِلَّا أَنْتَ جَدَّ إِذْ أَمَرْتُكَ قَالَ أَنَا خَيْرٌ مِنْهُ خَلَقْتَنِي مِنْ نَارٍ
 وَخَلَقْتَهُ مِنْ طِينٍ ﴿١١٢﴾ قَالَ فَأَهِيظْ مِنْهَا فَمَا يَكُونُ لَكَ أَنْ تَتَكَبَّرَ
 فِيهَا فَاخْرُجْ إِنَّكَ مِنَ الصَّغِيرِينَ ﴿١١٣﴾ قَالَ أَنْظِرْنِي إِلَى يَوْمِ يُبْعَثُونَ
 ﴿١١٤﴾ قَالَ إِنَّكَ مِنَ الْمُنظَرِينَ ﴿١١٥﴾ قَالَ فِيمَا أَعُوذْتُ لَأَقْعُدَنَّ لَهُمْ
 صِرَاطَكَ الْمَسْتَقِيمَ ﴿١١٦﴾ ثُمَّ لَا يَتَّبِعُهُمْ مِنْ بَيْنِ أَيْدِيهِمْ وَمِنْ خَلْفِهِمْ
 وَعَنْ أَيْمَانِهِمْ وَعَنْ شَمَائِلِهِمْ وَلَا تَجِدُ أَكْثَرَهُمْ شَاكِرِينَ ﴿١١٧﴾ قَالَ
 أَخْرَجْ مِنْهَا مَذْمُومًا مِمَّنْ تَبِعَكَ مِنْهُمْ لَأَمْلَأَنَّ جَهَنَّمَ مِنْكُمْ
 أَجْمَعِينَ ﴿١١٨﴾ وَيَقَادِمُ اسْكُنْ أَنْتَ وَزَوْجُكَ الْجَنَّةَ فَكُلَا مِنْ حَيْثُ
 شِئْتُمَا وَلَا تَقْرَبَا هَذِهِ الشَّجَرَةَ فَتَكُونَا مِنَ الظَّالِمِينَ ﴿١١٩﴾ فَوَسَّوَسَ
 لَهُمَا الشَّيْطَانُ لِيُبْدِيَ لَهُمَا مَا وُورِيَ عَنْهُمَا مِنْ سَوْءِ أَيْتِهِمَا وَقَالَ
 مَا نَهَاكُمَا رَبُّكُمَا عَنْ هَذِهِ الشَّجَرَةِ إِلَّا أَنْ تَكُونَا مَلَكَتَيْنِ
 أَوْ تَكُونَا مِنَ الْخَالِدِينَ ﴿١٢٠﴾ وَقَاسَمَهُمَا إِنِّي لَكُمَا لَمِنَ النَّاصِحِينَ ﴿١٢١﴾
 فَدَلَّهُمَا بَعْرُورًا فَلَمَّا ذَاقَا الشَّجَرَةَ بَدَتْ لَهُمَا سَوْءُ أَيْتِهِمَا وَطَفِقَا
 يَخْتَصِفَانِ عَلَيْهِمَا مِنْ وَرَقِ الْجَنَّةِ وَنَادَاهُمَا رَبُّهُمَا أَلَمْ أَنْهَكُمَا عَنْ
 تِلْكَ الشَّجَرَةِ وَأَقُلْتُ لَكُمَا إِنَّ الشَّيْطَانَ لَكُمْ عَدُوٌّ مُبِينٌ ﴿١٢٢﴾

12 アッラーはイブリースに非難して言った。わたしがあなたにアーダムに対して平伏するよう命じたとき、あなたがその通りにしなかったのはどうしてか？かれは答えて言った。わたしはかれよりも優れているからだ。あなたはわたしを火から創造したが、かれを土から創造した。火の方が、土よりも誉れ高いのだ。

13 アッラーは言われた。楽園から落ちて行け。あなたはここで高慢であってはならない。ここは、清浄で善良な人たちのいる所だ。だから出て行け。イブリースよ、あなたは、自分がアーダムよりも誉れ高いと思っても、本当に恥ずべき卑しい者だ。

14 イブリースは言った。主よ、復活する日まで、わたしに時間を与えよ。そうすればわたしは、できる限り人びとを迷わせるのだ。

15 アッラーは言われた。イブリースよ、あなたは全員が死ぬこととなる、第一のラッパが鳴る日まで猶予される一人となった。そうして創造主だけが、残るのである。

16 イブリースは言った。アーダムに対して平伏するよにとのあなたの命令に従わないので、あなたはわたしを迷わせた。だから、わたしはあなたの正しい道の上でアーダムの子孫を待ち伏せて、かれらをそれから逸脱させるのだ。ちょうどあなたが、わたしをかれらの父であるアーダムに平伏しなかったために迷わせたように。

17 そしてわたしはかれらの前後左右から襲う。それは、来世を無視させ、現世に欲を持たせ、疑念を生じさせ、欲望を是認させるためである。主よ、あなたはかれらの多くがあなたに感謝していないことに気付くだろう。それは、わたしがかれらを不信仰に引き入れたからだ。

18 アッラーは言われた。イブリースよ、アッラーの慈悲から追われて恥をさらしつつ出て行け。復活の日、われは確かにあなたとあなたに従って、主の命令に逆らった人全員で、地獄を満たすだろう。

19 アッラーは言われた。アーダムよ、あなたとあなたの妻ハワーは楽園に住みなさい。そしてあなたがたは何でも好きに食べるがよい。ただしこの定めた木からは食べないように。この命令の後から食べるとすると、それは二人共、則を犯す者となるのである。

20 するとイブリースは、隠れていた恥ずかしいところを兩人にあらわにするため、ささやいた。かれは言った。あなた方の主が、この木から食べるなど言ったのは、あなたがたが天使になり、また楽園で不死の者にならないためだ。

21 そしてかれはかれらに誓った。アーダムとハワーよ、本当にわたしは、あなた方にするように示唆したことに鑑みて、誠実な助言者である。

22 このようにかれは、兩人を欺瞞と錯誤によって墮落させた。そしてかれらがこの禁じられた木から食べると、かれらの恥ずかしいところが兩人にあらわになった。そしてかれらは楽園の葉で、かれら自身を覆い始めた。そこでかれらの主は、兩人に呼びかけた。われはこの木から食べることを、あなた方に禁じなかったか。またわれは悪魔があなた方兩人の、明らかな敵だと警告しなかったか。

本諸節の功德:

- 擁護者に背く者は、誰であれ卑しい存在であることを、これらの諸節は明らかにしている。
- アーダムの子孫に、悪魔はその敵意を明らかにした。そしてあらゆる手段と方法によって、正しい道から妨げることを言明した。
- 背く事は重大であり、アッラーはそれに対して、現世と来世の懲罰をもたらされることとなる。

قَالَ رَبَّنَا ظَلَمْنَا أَنفُسَنَا وَإِن لَّمْ تَغْفِرْ لَنَا وَتَرْحَمْنَا لَنَكُونَنَّ
 مِنَ الْخَاسِرِينَ ﴿٦٦﴾ قَالَ أَهْبِطُوا بَعْضُكُمْ لِبَعْضٍ عَدُوٌّ لَّكُمْ
 فِي الْأَرْضِ مُسْتَقَرٌّ وَمَتَاعٌ إِلَىٰ حِينٍ ﴿٦٧﴾ قَالَ فِيهَا تَحْيَوْنَ وَفِيهَا
 تَمُوتُونَ وَمِنْهَا تُخْرَجُونَ ﴿٦٨﴾ يَبْنِيٰءَ آدَمَ قَدْ أَنْزَلْنَا عَلَيْكُمْ
 لِبَاسًا يُورِي سَوَاءَ تَكْوَرٍ وَرِيثًا وَلِبَاسُ التَّقْوَىٰ ذَٰلِكَ خَيْرٌ
 ذَٰلِكَ مِنْ ءَايَاتِ اللَّهِ لَعَلَّهُمْ يَذَّكَّرُونَ ﴿٦٩﴾ يَبْنِيٰءَ آدَمَ لَا يَفْتِنَنَّكُمْ
 الشَّيْطَانُ كَمَا أَخْرَجَ أَبَوَيْكُمْ مِنَ الْجَنَّةِ يَنْزِعُ عَنْهُمَا
 لِبَاسَهُمَا لِيُرِيَهُمَا سَوْءَٰتِهِمَا إِنَّهُ يَرِيكُمْ هُوَ وَقَبِيلُهُ مِنْ
 حَيْثُ لَا تَرَوْنَهُمْ إِنَّا جَعَلْنَا الشَّيَاطِينَ أَوْلِيَاءَ لِلَّذِينَ لَا يُؤْمِنُونَ
 ﴿٧٠﴾ وَإِذْ أَعْلَوْا فَحِشَّةٌ قَالُوا وَجَدْنَا عَلَيْهِآءَ آبَاءِنَا وَاللَّهُ أَمَرَنَا
 بِهَا قُلْ إِنِ اللَّهُ لَا يَأْمُرُ بِالْفَحِشَاءِ أَتَقُولُونَ عَلَى اللَّهِ مَا لَا تَعْمَلُونَ
 ﴿٧١﴾ قُلْ أَمْرِي بِالْقِسْطِ وَأَقِيمُوا وُجُوهَكُمْ عِندَ كُلِّ مَسْجِدٍ
 وَادْعُوهُ مُخْلِصِينَ لَهُ الدِّينَ كَمَا بَدَأَكُمْ تَعُودُونَ ﴿٧٢﴾
 فَرِيقًا هَدَىٰ وَفَرِيقًا حَقَّ عَلَيْهِمُ الضَّلَالَةُ إِنَّهُمْ اتَّخَذُوا
 الشَّيَاطِينَ أَوْلِيَاءَ مِنْ دُونِ اللَّهِ وَيَحْسَبُونَ أَنََّّهُم مُّهْتَدُونَ ﴿٧٣﴾

23 アーダムとハワーは言った。わたしたちの主よ、わたしたちは禁じられたその木から食べたことで自分自身を欺きました。もしあなたがわたしたちの罪をお赦しにならず、慈悲を与えてくださらなければ、わたしたちは現世と来世において立場もなく、失敗者になってしまうでしょう。

24 アッラーは、アーダムとハワーとイブリースに言った。樂園から地上に落ちて行け。あなた方は、互いに敵となろう。あなた方は、地上において定められた間は、生活を享受して住めるだろう。

25 アッラーは、アーダムとハワーとかれらの子孫に言った。地上では、あなた方はアッラーが定められた期間は生き、そして死に、埋葬され、また墓から復活の時、外へ出されるだろう。

26 アーダムの子孫よ、われらはあなた方の恥ずかしいところを覆う必要のため、また装飾として、衣装をあなた方にもたらしした。しかしアッラーの命令に従い、禁じられたことは回避する、篤信さという衣装こそ、物質的な衣装よりもっと善い。これはアッラーの能力を示す印のひとつであり、その恩恵を思い起こし、それに感謝するためである。

27 アーダムの子孫よ、悪魔があなた方を迷わせて、背信が美しいと思わせ、恥ずかしいところを隠す衣装を剥ぎ取ったりするようになってはいけない。それは篤信の衣装を脱ぎ捨てることである。あなた方の両親(アーダムとハワー)が樂園から追い出されたが、木から食べてはいけないのを、それをいいことと勘違いさせられたからだ。あなた方は悪魔に惑わされてはいけない。実に悪魔とその一味は、あなた方を見て、観察している。しかしあなた方はそうではない。だからかれらに用心せよ。われらは悪魔を、不信仰者の援護者としたのだ。信仰し、善行に勤しむ者には、悪魔は対抗しようがないのだ。

28 多神教徒たちは、多神崇拝や巡礼でカアバ殿を裸で巡回するといった、厳しく禁じられた行為をするとき言う。わたしたちは先祖がこれを行なうのを見た、そしてアッラーがこれをわたしたちに命じた。ムハンマドよ、言え。アッラーは、背信行為は命じられず、むしろそれは禁じられるのだ。あなた方は、アッラーについてどうしてそのようなことを口にできるのか。多神教徒たちよ、あなた方はアッラーに対して、知らないことで嘘をつき、中傷するのかわ?

29 ムハンマドよ、かれら多神教徒たちに言え。わたしの主は、公正を命じ、醜い行為や邪悪は命じられない。そしてどこであれ、特にマスジドでは、かれに服従の儀礼を払い、至誠の信心を尽くしかれを呼ぶように命じられた。かれがあなた方を最初に無から創ったと同様に、あなた方は生きて戻る。つまり初めの創造も可能であれば、その生き返り、つまり復活も可能なのだ。

30 アッラーは、人々を二つのグループに分けられた。ある一団は導き、導きの原因を容易なものとされ、また障害物を取り除かれた。またある一団には、真理から離れた迷いを必然とした。かれらはアッラーではなく悪魔を擁護者としたので、無知に引きずられて、自分たちは正しく導かれていると考えたのだ。

本諸節の功德:

- アーダムのように、認め、赦しを請い、悔悟し、自制する人は、罪を犯してもアッラーから選ばれて、導かれる。しかし、イブリースのように、強情でしつこく罪を犯すなら、アッラーから離れるばかりである。
- 衣類には二種類ある。身体の外側で覆うべきところを隠すもの。それと、内心の衣類であるが、それはアッラーを畏怖する心と魂の美しさで、信者に長く継続する。
- 多くの人は、悪魔の手助けとして、外を覆う衣類を脱いで、覆うべきところを露出することを勧める。そして人々は、邪悪でふしだらな行為をしがちになるのだ。
- 導きはアッラーからの恩寵で与えられるものだが、誤道はその人の無知と不服従により悪魔に従うことで自らを迷わせた僕に与えられるものであり、アッラーはそのような者を辱められる。

*يَبْنِيءَ آدَمَ خَدُوًا زَيْنَتَكُمْ عِنْدَ كُلِّ مَسْجِدٍ وَكُلُوا وَاشْرَبُوا
 وَلَا تُسْرِفُوا إِنَّهُ لَا يُحِبُّ الْمُسْرِفِينَ ﴿٣١﴾ قُلْ مَنْ حَرَّمَ زِينَةَ اللَّهِ
 الَّتِي أَخْرَجَ لِعِبَادِهِ وَالطَّيِّبَاتِ مِنَ الرِّزْقِ قُلْ هِيَ لِلَّذِينَ آمَنُوا
 فِي الْحَيَاةِ الدُّنْيَا خَالِصَةً يَوْمَ الْقِيَامَةِ كَذَلِكَ نُفَصِّلُ الْآيَاتِ
 لِقَوْمٍ يَعْلَمُونَ ﴿٣٢﴾ قُلْ إِنَّمَا حَرَّمَ رَبِّي الْفَوَاحِشَ مَا ظَهَرَ مِنْهَا وَمَا
 بَطَّنَ وَالْإِثْمَ وَالْبَغْيَ بِغَيْرِ الْحَقِّ وَأَنْ تُشْرِكُوا بِاللَّهِ مَا لَمْ يُنَزِّلْ
 بِهِ سُلْطَانًا وَأَنْ تَقُولُوا عَلَى اللَّهِ مَا لَا نَعْمُونَ ﴿٣٣﴾ وَلِكُلِّ أُمَّةٍ
 أَجَلٌ فَإِذَا جَاءَ أَجَلُهُمْ لَا يَسْتَأْخِرُونَ سَاعَةً وَلَا يَسْتَقْدِمُونَ
 ﴿٣٤﴾ يَبْنِيءَ آدَمَ إِمَامًا يَنْبَغِيكُمْ رَسُولٌ مِّنْكُمْ يَفْضُلُونَ عَلَيْكُمْ آيَاتِي فَمَنْ
 أَتَى وَأَصْلَحَ فَلَا خَوْفٌ عَلَيْهِمْ وَلَا هُمْ يَحْزَنُونَ ﴿٣٥﴾ وَالَّذِينَ كَذَبُوا
 بَيِّنَاتِنَا وَأَسْتَكْبَرُوا عَنْهَا أُولَئِكَ أَصْحَابُ النَّارِ هُمْ فِيهَا
 خَالِدُونَ ﴿٣٦﴾ مَن أظْلَمُ مِمَّنِ افْتَرَى عَلَى اللَّهِ كَذِبًا أَوْ كَذَّبَ
 بِآيَاتِهِ أُولَئِكَ يَنَالُهُمْ نَصِيبُهُمْ مِنَ الْكِتَابِ حَتَّى إِذَا جَاءَهُمْ
 رَسُولُنَا يُخَوِّفُونَهُمْ قَالُوا لَوْ إِنَّا كُنْتُمْ تَدْعُونَ مِن دُونِ اللَّهِ
 قَالُوا أَضَلُّوا عَنَّا وَشَهِدُوا عَلَىٰ أَنفُسِهِمْ أَنَّهُمْ كَانُوا كَافِرِينَ ﴿٣٧﴾

31 アーダムの子孫よ、いつも礼拝や巡礼の巡回のときは、恥部を隠す衣服を身に付けよ。清潔で清浄な衣装を身につけよ。そして飲食するにしても、アッラーが許された善いものを口にせよ。中庸を守り、許された範囲を越して、禁じられた範囲に入ってはいけない。真にアッラーは、中庸の限度を超える人たちが好まれないのだ。

32 使徒よ、多神教徒たちはアッラーが許された衣類と善い飲食物などを禁じた。かれらに言え。あなた方を飾る衣服を禁じたのは誰か？またアッラーが恵まれた善い飲食物などを禁じたのは誰か？使徒よ、言え。これらは、現世において信仰する人たちのためのものだ。そしてたとえそれ以外の人たちが共有するとしても、復活の日には信者たちが専有するものである。つまり不信仰者には、それらはないのだ。楽園は不信仰者には閉じられているから。アッラーは、このように理解ある人びとにその印を解明する。というのは、かれらこそそれから受益するものだからだ。

33 ムハンマドよ、アッラーが許されたものを禁じる多神教徒たちに言え。アッラーが禁じたことは、表に現れているが隠れているが、醜行で破廉恥な行為であり、またすべての背信行為、人々への生命や財産や尊厳上の不当な侵害、アッラーが何の権威も授けていないものを同位に配すること、そしてアッラーについて、何の知識もないのに、その美称や属性や行為や法規範に関して、あなた方が口にするのである。

34 各世代には定められた期限がある。だからその期限が来れば、一刻も遅らすこともできず、早めることもできない。

35 アーダムの子孫よ、あなた方の間から使徒たちが来て、あなた方にわれの書板からの啓示を語ったら、それに倣い、従え。アッラーを畏れて命令に従い、禁じられたことを避け、善行に努める人には、復活の日には恐怖もない。また現世の快樂で迷したことに悲哀もない。

36 一方、われらの印を嘘呼ばわりし、信仰しない不信仰者たちは、使徒たちがもたらしたものに従って行動せず、威張って高慢な人で、地獄の火の人々であり、その中に永遠に住むのである。

37 アッラーに対して嘘をつき、かれに同列者を配し、欠陥があると言ったり、言わないことを言ったとし、あるいは正しい道に導いてくれる莊嚴なかれの印を拒否するよりも、不正な人がいるだろうか。かれらは書板にある善悪・幸不幸の取り分を受け取り、やがて死の天使とその補佐たちがその元に来て、魂を召すのだ。そして天使たちは、不信仰者を非難して言う。アッラーの他にあなた方が呼んでいたもの(多神)は、どこにいるのか。益するために、かれらと呼んだらどうだ。不信仰者は天使たちに言う。かれら(多神)は、わたしたちを置いてきばりにし、いなくなったので、どこにいるのか分からない。こうして不信仰者であったと、自ら認める。しかしそのように認めても、かれらの利益に反するものであり、何も益をもたらさないのだ。

本諸節の功德:

- 信者は礼拝中、そしてとくにマスジドへ赴くときは、恥部を隠し、衣服を正して、アッラーの儀礼を遵守すべきである。
- 知識もなくクルアーンを解いたり、法勧告したり、裁いたりする人たちは、知識もなくアッラーに対して背いたことを言ったこととなる。かれらは、最大の禁則を犯したこととなる。
- アッラーの印は、信者は復活の日には、恐怖もなく悲哀もないことを証明している。恐れ震えあがる必要もない。もしそうなくても、結局は安全なのである。
- 至高なるアッラーが意図されることに反する、最悪の人たちとは次のように二様ある。一つには、アッラーの意図の否定。もう一つは、アッラーが意図していないものをアッラーがそれを意図していると人々に誤解させることである。

قَالَ ادْخُلُوا فِي أُمَمٍ قَدْ خَلَتْ مِنْ قَبْلِكُمْ مِنَ الْجِنِّ وَالْإِنْسِ فِي النَّارِ كَمَا دَخَلَتْ أُمَّةٌ لَعْنَتْ أُخْتَهَا حَتَّى إِذَا آذَرَكُوا فِيهَا جَمِيعًا قَالَتْ أُخْرِبُهُمْ وَلَا أُؤْلَهُمُ رَبَّنَا هَؤُلَاءِ أَصْلُ نَوَافِقِهِمْ عَدَابَ الضَّعَفَاءِ مِنَ النَّارِ قَالِ لِكُلِّ ضِعْفٍ وَلَكِنْ لَا تَعْمَلُونَ ﴿٣٨﴾ وَقَالَتْ أُؤْلَهُمُ لِأُخْرِبُهُمْ فَمَا كَانَ لَكُمْ عَلَيْهِمْ مِنْ فَضْلٍ فذُوقُوا الْعَذَابَ بِمَا كُنْتُمْ تَكْسِبُونَ ﴿٣٩﴾ إِنَّ الَّذِينَ كَذَّبُوا بِآيَاتِنَا وَاسْتَكْبَرُوا عَنْهَا لَا تُفَتِّحْ لَهُمُ أَبْوَابُ السَّمَاءِ وَلَا يَدْخُلُونَ الْجَنَّةَ حَتَّى يَلِجَ الْجَمَلُ فِي سَمِّ الْخِيَاطِ وَكَذَلِكَ نَجْزِي الْمُجْرِمِينَ ﴿٤٠﴾ لَهُمْ مِنْ جَهَنَّمَ مِهَادٌ وَمِنْ فَوْقِهِمْ غَوَاشٍ وَكَذَلِكَ نَجْزِي الظَّالِمِينَ ﴿٤١﴾ وَالَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ لَا نُكَلِّفُ نَفْسًا إِلَّا وُسْعَهَا أُولَئِكَ أَصْحَابُ الْجَنَّةِ هُمْ فِيهَا خَالِدُونَ ﴿٤٢﴾ وَنَزَعْنَا مَا فِي صُدُورِهِمْ مِنْ غَلٍ تَجْرِي مِنْ تَحْتِهِمْ أَنْ تَنْهَرُوا قَالُوا الْحَمْدُ لِلَّهِ الَّذِي هَدَانَا لِهَذَا وَمَا كُنَّا لِنَهْتَدِيَ لَوْلَا أَنَّ هَدَانَا اللَّهُ لَقَدْ جَاءَتْ رَسُولٌ رَبِّنَا بِالْحَقِّ وَنُودُوا أَنْ تُلْكُمُ الْجَنَّةُ أَوْرَثْتُمُوهَا بِمَا كُنْتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿٤٣﴾

38) 天使たちは言う。多神教徒たちよ、地獄の火の中で、不信仰と迷いにあったあなた方以前に去ったジンと人間の一团に加われ。毎回ある一团が地獄の火に入るたびに、先行した仲間の一团を呪う。そして全員その中で追いついて集合すると、最後の一团(かれらは地位が低く、高慢な指導者たちであった最初の一团に従っていた)は言う。わたしたちの主よ、かれらがわたしたちの道を美化して導きの道から迷わせたので、倍の地獄の火の苦痛を与えるように。かれは言う。それぞれに倍の苦痛があるが、あなた方はそれを知らずに認識していないだけなのだ。

39) また指導的で従われていた初めの一团は、従ってきた最後の一团について言う。従者たちよ、あなた方に、苦痛を軽減するような、わたしたちよりも善いところはないのだ。だから、自らが稼いだことに対する苦痛を味わえ。過ちに従ってきたことについての言い訳はないのだ。従う者たちよ、だから私たちと同様の苦痛を味わえ。自らの不信仰と不服従で稼いだものに鑑みて。

40) われらの明瞭な印を嘘呼ばわりし、それに歯向かい高慢であった人たちは、すべての善いことを失うのだ。かれらの不信仰のために天の門は開かれず、死んでもその魂にも開かれず、楽園には入らない。最大の獣の一つであるラクダが、最小のもの一つである針の穴を通ったとしても、かれらは楽園には入らないが、そんなことは元々不可能である。アッラーは、罪の深い人には、このように報われるのだ。

41) 嘘つきで高慢な人々には、地獄がかれらの寝床であり、上には幾重にも重なる火の覆いがある。われらはこのように、不信仰と背反でアッラーの定めを逸脱するような人たちに報いるのだ。

42) でも信仰して最大限の善行に励む人は、われらは誰にも能力以上の重荷を与えない。かれらは楽園の人々で、その中に永遠に住むのである。

43) 楽園での最良の安楽として、アッラーはかれらの心の中にある嫌悪や怨恨を取り除かれる。川がかれらの足元を流れる。かれらはそこに来て住み着くと、アッラーの恵みを認めて言う。わたしたちはアッラーのお陰で善行を行い、またそのお陰でここに導かれた。すべての称賛をアッラーに捧げる。もしアッラーの導きがなければ、わたしたちは正しい道を見つけられなかっただろう。確かにわたしたちの主の使徒たちは、疑いもない真理をもたらした。善行者への約束は真実であり、悪行者への警告も真実である。そして信者に対する呼び声が聞こえてくる。これが現世で預言者たちが告げた楽園である。あなた方がしてきた善行にアッラーは結論を出されたが、そのような善行によって、あなた方はアッラーの尊顔を望んでいたのだと。

本諸節の功德:

- 現世の嘘つきたちの間の友愛は、復活の日には敵対と非難に取って代わられる。
- 信者の魂には天国の扉は、アッラーに上り着くために開かれる。そして主に近いことや、ご満悦を得ることで、喜悅するのである。
- 嘘つきで背反する者たちには、天の扉は開かれない。死ぬと上昇して赦しを請うが、赦されることはない。現世でもアッラーを信仰し、よく知り、愛することもなく、上昇することはなかったのだ。死後も同じことなのだ。要するに、行いの内容に従って報われるということになる。
- 楽園の人々は、アッラーの赦しにより地獄の火から免れた。またアッラーの慈悲により、楽園に入れられた。またかれらの与えられる位階は善行によるが、それもアッラーの慈悲によるものだ。いや、実際のところ、その最良の類の慈悲によるのである。

44 全員が用意された住まいに入ると、楽園の人々は地獄の火の人々に向かって呼びかける。わたしたちは、主が自分たちに約束した、楽園のことが真実であると分った。あなた方も、主が地獄の火について約束したことが真実であると分ったかと。かれらは、そうだ、地獄の火についての約束は真実だったと言う。そのとき呼びかける者から、こう告げられる。アッラーよ、不正の人々を慈悲から遠ざけて下さい。慈悲の扉は開かれていたが、かれらは現世において、それから遠ざかったのだ。

45 これらの不正の人々は、アッラーの道を妨げ、他の人々にも妨げさせる。そして人々が従わないように、その真実の道を歪めようとする。来世について、かれらは不信仰であり、不用意なのである。

46 両者の間には仕切り壁(ヒジャーブ)があり、その高壁と言われる壁の上には、善悪が均等になった人々がいて、かれらは天国に入る人々の顔が白く、地獄に入る人々の顔は黒いなどの特徴によってすべての人を認知している。かれらは楽園の人々に向けて、あなた方に平安あれと挨拶する。高壁の人々は、アッラーのお慈悲によって天国に入れてもらえるのを願いはするが、まだ入れてもらえないままなのである。

47 またかれらの目が地獄の火の人々の方に向くと、きつい苦痛を味わっていることが分かる。かれらは言う。主よ、わたしたちを不信仰と神に並置した不正の人々と一緒にしないでくれと。

48 高壁の人々は、黒い顔や青い目などの特徴によって認知できる地獄の住民である不信仰者に呼びかけ言う。あなた方の蓄財と高慢であったことは役に立たなかった。また威張ったり高慢であることで真実からそれることは、あなた方にとって益するところではなかった。

49 かれら(高壁の人々)は不信仰者を非難して言う。「かれら(信者)はアッラーが慈悲を与えないとあなた方が誓言した人々ではないのか。」かれら(高壁の人々)は信者に言う。「楽園に入りなさい、何があるか怖がらずに入るように。また永遠の安楽に恵まれたのだから、現世において運が悪かったと悲嘆してはならない。」

50 地獄の火の人々は、楽園の人々を大声で嘆願して呼ぶ。わたしたちの上から水を注いでくれ。もしくはアッラーがあなた方に恵まれた食物をと。楽園の人々は言う。アッラーは、そのどちらも不信仰に鑑みて、不信仰者に禁じられた。われわれは、アッラーが禁じられたものであなた方を救うことはない。

51 地獄の火の人々は、自分自身の宗教を遊びや戯れとした人々である。現世の生活がその飾りでかれらを欺いたのだ。だから審判の日には、かれらが苦痛に苦しんでも、アッラーはかれらを無視する。それはちょうど、かれらがこの日の面会を忘れ、その日のために何もせず、何の準備もしなかったと同じことだ。アッラーの論拠と証にも拘わらず、またかれらはそれらが真実だということを知っていたのに、かれらはそれらを拒否し否定してきた。

本諸節の功德:

- 復活を信じないことは、欲望へと志向する直接の原因になる。
- 復活の日には、従う人々はアッラーの約束が真実であることを知るし、また不信仰者はアッラーの警告は真実であることを知る。
- 復活の日には、人には二種類ある。楽園行きと地獄行きである。両者の間の人々には、中央の場所があって、善悪が同量である場合だ。かれらの最後の行き所は、楽園である。
- 資財、栄光、多数の従者などを持つ者は、これらすべてはアッラーの元では何も役立つことを知るべきである。さらには懲罰の責めから逃れさせてもくれない。

وَنَادَى أَصْحَابُ الْجَنَّةِ أَصْحَابَ النَّارِ أَنْ قَدْ وَجَدْنَا مَا وَعَدَنَا رَبُّنَا حَقًّا فَهَلْ وَجَدْتُمْ مَا وَعَدَ رَبُّكُمْ حَقًّا قَالُوا نَعَمْ قَالَتْ مُؤَيِّذٌ بَيْنَهُمْ أَنْ لَعْنَةُ اللَّهِ عَلَى الظَّالِمِينَ ٤٤ الَّذِينَ يَصُدُّونَ عَن سَبِيلِ اللَّهِ وَيَبْغُونَهَا عِوَجًا وَهُمْ بِالْآخِرَةِ كَافِرُونَ ٤٥ وَبَيْنَهُمَا حِجَابٌ وَعَلَى الْأَعْرَافِ رِجَالٌ يَعْرِفُونَ كُلًّا بِسِيمَتِهِمْ وَنَادَوْا أَصْحَابَ الْجَنَّةِ أَنْ سَلِّمُوا عَلَيْنَا لَمْ يَدْخُلُوها وَهُمْ يَطْمَعُونَ ٤٦ * وَإِذَا صُرِفَتْ أَبْصَارُهُمْ تِلْقَاءَ أَصْحَابِ النَّارِ قَالُوا رَبَّنَا لَا تَجْعَلْنَا مَعَ الْقَوْمِ الظَّالِمِينَ ٤٧ وَنَادَى أَصْحَابُ الْأَعْرَافِ رِجَالًا يَعْرِفُونَهُمْ بِسِيمَتِهِمْ قَالُوا مَا أَعْنَى عَنْكُمْ جَمْعُكُمْ وَمَا كُنْتُمْ تَسْتَكْبِرُونَ ٤٨ أَهَؤُلَاءِ الَّذِينَ أَقْسَمْتُمْ لَا يَنَالُهُمُ اللَّهُ بِرَحْمَةٍ أَدْخُلُوا الْجَنَّةَ لَا خَوْفٌ عَلَيْهِمْ وَلَا أَنْتُمْ تَحْزَنُونَ ٤٩ وَنَادَى أَصْحَابُ النَّارِ أَصْحَابَ الْجَنَّةِ أَنْ أَفِيضُوا عَلَيْنَا مِنَ الْمَاءِ أَوْ مِمَّا رَزَقَكُمُ اللَّهُ قَالُوا إِنَّ اللَّهَ حَرَّمَهُمَا عَلَى الْكَافِرِينَ ٥٠ الَّذِينَ اتَّخَذُوا دِينَهُمْ لَهْوًا وَلَعِبًا وَغَرَّتْهُمُ الْحَيَاةُ الدُّنْيَا قَالُوا لَوْ كُنَّا نَسْمَعُ لَكُمْ مَتَى كُنَّا سَمِعًا لَقَاءَ يَوْمِهِمْ هَذَا وَمَا كُنَّا نُؤَيِّدُ بَيْنَهُمْ تَابِعَاتٍ وَتَابِعَاتٍ ٥١

وَلَقَدْ جِئْتَهُمْ بِكِتَابٍ فَصَّلْنَاهُ عَلَىٰ هُدًى وَرَحْمَةً
 لِّقَوْمٍ يُؤْمِنُونَ ﴿٥٦﴾ هَلْ يَنْظُرُونَ إِلَّا تَأْوِيلَهُ وَيَوْمَ يَأْتِي تَأْوِيلَهُ
 يَقُولُ الَّذِينَ نَسُوهُ مِنْ قَبْلُ قَدْ جَاءَتْ رُسُلٌ رَبِّنَا بِالْحَقِّ
 فَهَلْ لَنَا مِنْ شُفَعَاءَ فَيَشْفَعُوا لَنَا أَوْ نُرَدُّ فَنَعْمَلْ غَيْرَ الَّذِي
 كُنَّا نَعْمَلُ قَدْ خَسِرْنَا أَنفُسَهُمْ وَضَلَّ عَنْهُمْ مَا كَانُوا
 يَفْتَرُونَ ﴿٥٧﴾ إِنَّ رَبَّكُمْ اللَّهُ الَّذِي خَلَقَ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ
 فِي سِتَّةِ أَيَّامٍ ثُمَّ اسْتَوَىٰ عَلَى الْعَرْشِ يُعْشَىٰ لَيْلَ النَّهَارِ
 يَطْبَعُهُ وَحِثْيَانَا وَالشَّمْسَ وَالْقَمَرَ وَالنُّجُومَ مُسَخَّرَاتٍ
 بِأَمْرِهِ أَلَا لَهُ الْخَلْقُ وَالْأَمْرُ تَبَارَكَ اللَّهُ رَبُّ الْعَالَمِينَ ﴿٥٨﴾
 أَذْعُورَ رَبِّكُمْ تَضَرُّعًا وَخُفْيَةً إِنَّهُ لَا يُحِبُّ الْمُعْتَدِينَ ﴿٥٩﴾
 وَلَا تُفْسِدُوا فِي الْأَرْضِ بَعْدَ إِصْلَاحِهَا وَأَدْعُوهُ حَوْفًا وَطَمَعًا
 إِنَّ رَحْمَتَ اللَّهِ قَرِيبٌ مِّنَ الْمُحْسِنِينَ ﴿٦٠﴾ وَهُوَ الَّذِي يُرْسِلُ
 الرِّيحَ بُشْرًا بَيْنَ يَدَيْ رَحْمَتِهِ حَتَّىٰ إِذَا أَقْلَّتْ سَحَابًا بِثِقَالٍ
 أُنْفِثَتْ لِبَلَدٍ مَّيِّتٍ فَأَنْزَلْنَا بِهِ الْمَاءَ فَأَخْرَجْنَا بِهِ مِنْ كُلِّ
 الثَّمَرَاتِ كَذَلِكَ نُخْرِجُ الْمَوْتَى لَعَلَّكُمْ تَذَكَّرُونَ ﴿٦١﴾

52 われら はかれらに対して、ムハンマド(アッラーの祝福と平安を)を通じてこのクルアーンを啓示した。そしてわれらが解明する知識をもって、それを説明した。信仰する人々を導き真実をもたらす。また慈悲でもあるのは、それでかれらを現世と来世の善に導くからである。

53 厳しい苦痛という、知らされていたことが起こるのを、不信者は待つだけである。それはかれら自身の行いから来る、来世の結果である。他方信者にも知らされているが、それは報奨である。現世でクルアーンとその内容を無視した連中は、言うであろう。わたしたちの主の使徒たちは、確かに疑念の余地のない真理を持って来た。それは間違いなく、アッラーからのものだ。そこで審判の日、わたしたちのために執り成してくれる人がいて、懲罰を免除してくれるといいのだが。もしくは、悪行ではなくて、わたしたちがしてこなかった善行をするため、現世の生活に送り返されればいいのに。結局かれらは不信仰が原因で破滅の要因を持ち込んで、自らを滅ぼし、かれらが崇拝してきたものは、かれらを置き去りにして、何の役にも立たなかった。

54 人々よ、誠にあなた方の主は、アッラーで、かれは諸天と地を6日で創り、それから玉座に着かれた。それには荘厳さが伴っており、どのように着かれたかはわれわれには分からない。かれは昼の白さで夜の暗さを追い払い、夜の暗さで昼の白さを追い払われた。それに少しも遅れないよう、互いに急かすのである。あれが出ればこれが入るといった調子である。また太陽、月、群星を創造して、かれの命令に従順に従わせるのだ。かれにこそすべての創造があるのであり、かれ以外に創造主はいるのか。統括権もあり、あらゆる欠陥から無縁な貴いお方。かれこそは荘厳と完璧さで描写されている、つまりそれが全世界の主である。

55 信者たちよ、あなた方の主を呼ぶのは、完全に謙虚にして、そっと隠れて低姿勢でせよ。祈るに誠実で、また

外見のためや多神を呼ぶのではない。礼拝において、かれは限度を越す人たちを好まない。最悪の祈り方が、かれ以外をかれと共に祈ることである。それは多神教徒たちがすることである。

56 アッラーが使徒たち(平安を)を送られて地上を正されて、また従順にしてそれを繁栄させてからは、謀反という罪を犯して、地上で腐敗を引き起こしてはいけない。アッラーの懲罰を恐れ、報奨を楽しみにして、かれだけを呼ぶようにせよ。善行者にアッラーの慈悲は近いのだから、その一人になるように。

57 至高なるアッラーが雨をもたらす雲を送られるのだ。風は雨で重くなった雲を運んで、その雲を今度は不毛の大地に送られて、そこに雨を降らせられる。その雨が今度はあらゆる果実をもたらすように、われは使者を墓から甦らせるのである。そのようなことをしたのは、信者たちよ、あなた方がアッラーの能力とその創造のすばらしいことを想起するためである。そうしてかれは、本当に死者を復活するのである。

本諸節の功德:

- クルアーンは人間が必要とする詳細が述べられている、導きの書である。またアッラーからの慈悲と、心よりまじめに受け入れた人々への、導きの書なのである。
- アッラーは諸天と大地をお望みの英知によって6日間で創造された。もしお望みとあれば、かれがただ、「あれ」と言えば即ちあるのである。
- 完全に謙遜して低姿勢でもって、至高なるアッラーを呼ぶ義務が信者にはあり、そうすればかれはかれらに対してその恩寵で答えられるだろう。
- 地上におけるあらゆる腐敗は、どのような方法や仕方であれ、禁じられている。

58 良い土地には、アッラーの許しによって、植物がよく育つ。同様に信者は、戒めを聞いて、それから受益し、正しい行動を取る。腐って塩分の多い悪い土地には、貧弱なものしか育たず、それには利益はあまりない。不信仰者は戒めから受益せず、また益のあるような行動はとらない。こうして様々に、アッラーは印と証明を明らかにされ、感謝する人々に対して真実を確認される。かれらは不信仰を抱かず、その主に従順なのである。

59 確かにわれらは、ヌーフをかれの民に遣わした。その民に、かれの他に神はいない。アッラーに仕え、他の神は手放させるために。かれは言った。あなた方はアッラーだけを崇拜しなさい。それ以外には真に奉るものはない。それだから、不信仰を続けるならば、わたしはあなた方に降りかかる絶大な日の苦痛を恐れる。

60 かれの民の指導者たちと有力者たちは言った。ヌーフよ、本当にわたしたちは、あなたが明らかに間違っていると思う。

61 ヌーフは言い返した。わたしの民よ、わたしにあなた方が言うような間違いはない。わたしは主の導きにあり、アッラーからの使徒である。かれは、わたしの、そしてあなた方の、そして全世界の主なのだ。

62 わたしはあなた方に、アッラーの啓示を伝える。その命令に従い、報奨を授かることを願うようにすることで、あなた方に善を願うのだ。また禁止されたことをしてしまうことと、その懲罰から恐れさせることを願う。至高なるアッラーが啓示によりわたしに教えられたように、わたしはあなた方が知らないことを、アッラーから知っているのだ。

63 あなた方は自分たちの中にいる一人の男の舌を通して、あなた方の主から戒めが来たことに驚くのか。かれはあなた方の主で育ち、嘘もつかず誤ってもいなかったし、他の民族でもなかった。かれがあなた方に送られたのは、あなた方が嘘をつき反逆するときには、苦痛が襲うことを警告するためであり、その命令に従いその禁止令を遵守することで、あなた方がアッラーを畏れるためである。信仰することで、あなた方が慈悲に授かるためなのだ。

64 ところがかれらはかれを拒否し信じず、不信仰を続けた。だからかれは、アッラーがかれらを滅ぼすように祈った。そこでかれと方舟の中でかれと一緒にあった人々を救い、われらの印を嘘呼ばわりした人々を、懲罰である洪水で溺れさせた。かれらの心は真実から盲目であった。

65 またアードの民に、かれらの同胞のフード(平安)を使徒として遣わした。かれは言った。わたしの民よ、アッラーに仕えなさい。かれの他に神はいません。あなたがたは懲罰から救われるため、その命令に従いその禁止令を遵守し、アッラーを畏れないのか。

66 かれの民の中にいる不信仰で、アッラーに不信仰でフードを拒否した有力な指導者たちは言った。わたしたちが思うに、あなたがアッラーだけを崇拜するように言うなんて、本当に愚かで遅れている。アッラーのみを崇拜し、偶像を捨てろと言う。わたしたちは、使徒だと言うあなたのことは、嘘つきだと確信している。

67 かれは言った。わたしの民よ、わたしは愚かでも遅れてもいない。しかし、わたしはすべての世界の主からの使徒である。

وَالْبَلَدُ الطَّيِّبُ يَخْرُجُ نَبَاتُهُ بِإِذْنِ رَبِّهِ وَالَّذِي خَبثَ لَا يَخْرُجُ إِلَّا تَنْكِدًا كَذَلِكَ نَصْرَفُ الْأَيَّاتِ لِقَوْمٍ يَشْكُرُونَ ﴿٥٨﴾
 لَقَدْ أَرْسَلْنَا نُوحًا إِلَىٰ قَوْمِهِ فَقَالَ يَا قَوْمِ اعْبُدُوا اللَّهَ مَا لَكُم مِّنْ إِلَهٍ غَيْرُهُ وَإِنِّي أَخَافُ عَلَيْكُمْ عَذَابَ يَوْمٍ عَظِيمٍ ﴿٥٩﴾
 قَالَ الْمَلَأُ مِنْ قَوْمِهِ إِنَّا لَنَرُّكَ فِي ضَلَالٍ مُّبِينٍ ﴿٦٠﴾ قَالَ يَا قَوْمِ لَيْسَ بِي ضَلَالَةٌ وَلَكِنِّي رَسُولٌ مِّنْ رَبِّ الْعَالَمِينَ ﴿٦١﴾
 أُبَلِّغُكُمْ رِسَالَاتِ رَبِّي وَأَنْصَحُ لَكُمْ وَأَعْلَمُ مِنَ اللَّهِ مَا لَا تَعْلَمُونَ ﴿٦٢﴾ أَوْ عَجِبْتُمْ أَن جَاءَكُمْ ذِكْرٌ مِّنْ رَبِّكُمْ عَلَىٰ رَجُلٍ مِّنكُمْ لِيُنذِرَكُمْ وَلِتَتَّقُوا وَلَعَلَّكُمْ تُرْحَمُونَ ﴿٦٣﴾
 فَكَذَّبُوهُ فَأَنْجَيْنَاهُ وَالَّذِينَ مَعَهُ فِي الْفُلِكِ وَأَعْرَفْنَا الَّذِينَ يَكْفُرُونَ بِآيَاتِنَا إِنَّهُمْ كَانُوا قَوْمًا عَمِينَ ﴿٦٤﴾ * وَإِلَىٰ عَادِ آخَاهُمْ هُوًّا قَالَ يَا قَوْمِ اعْبُدُوا اللَّهَ مَا لَكُم مِّنْ إِلَهٍ غَيْرُهُ وَآفَلَا تَتَّقُونَ ﴿٦٥﴾ قَالَ الْمَلَأُ الَّذِينَ كَفَرُوا مِنْ قَوْمِهِ إِنَّا لَنَرُّكَ فِي سَفَاهَةٍ وَإِنَّا لَنُظُنُّكَ مِنَ الْكَاذِبِينَ ﴿٦٦﴾
 قَالَ يَا قَوْمِ لَيْسَ بِي سَفَاهَةٌ وَلَكِنِّي رَسُولٌ مِّنْ رَبِّ الْعَالَمِينَ ﴿٦٧﴾

本諸節の功德:

- 善い心とは、善い土地のようなもので、雨のような生活の糧として、啓示が降りて来る。啓示が降りるときに、心が善ければそれを認識し受け入れ、その善い基礎と構成要素に従って成長する。その逆も真である。
- 預言者と使徒たちは、両親の同情よりもさらに大きな同情を示すものである。
- アッラーは各民族中から同じ言葉を話す人々、使徒として遣わす。その天性が腐っていない人々には、親しみの念をもたらし、教えをより簡単に理解できるようにする。
- 真実に背き否定するほど馬鹿げた人もいない。知識人たちが助言者たちに従うことに対して傲慢で、企む悪魔に心も体も預けてしまうのである。

أُبَلِّغُكُمْ رِسَالَاتِ رَبِّي وَأَنَا لَكُمْ نَاصِحٌ أَمِينٌ ﴿٦٨﴾ أَوْ عَجِبْتَ أَنَّ
 جَاءَكَ ذِكْرُنَا عَلَى رَجُلٍ مِّنْكُمْ لِيُنذِرَكَ
 وَادُّرُؤًا إِذْ جَعَلْنَا خُلَفَاءَ مِنْ بَعْدِ قَوْمِ نُوحٍ وَزَادَكَ
 فِي الْخَلْقِ بَصَاطَةً ۗ فَأذْكُرُوا آلَاءَ اللَّهِ لَعَلَّكُمْ تَفْلَحُونَ
 ﴿٦٩﴾ قَالُوا أَجِئْتَنَا لِنَعْبُدَ اللَّهَ وَحْدَهُ وَنَذَرَ مَا كَانَ يَعْبُدُ
 آبَاؤَنَا فَأَنْتَ بِنَاتِنَا إِنَّا كُنْتُمْ مِنَ الصَّادِقِينَ ﴿٧٠﴾
 قَالَ فَذَرُوا عَنِّي مَن رَّبِّكُمْ رَجَسٌ وَعَصَبٌ
 أَجْبَدُ لُونِي فِي أَسْمَاءِ سَمَيِّئُوهَا أَنْتُمْ وَآبَاؤُكُمْ
 مَا نَزَّلَ اللَّهُ بِهَا مِنْ سُلْطَانٍ فَانظُرُوا إِلَيَّ مَعَكُمْ مِّنَ
 الْمُتَنظِّرِينَ ﴿٧١﴾ فَأَنْجَيْنَاهُ وَالَّذِينَ مَعَهُ بِرَحْمَةٍ مِنَّا
 وَقَطَعْنَا دَابِرَ الَّذِينَ كَذَبُوا بَيِّنَاتِنَا وَمَا كَانُوا مُؤْمِنِينَ
 ﴿٧٢﴾ وَإِلَى شَمُودَ أَخَاهُمْ صَالِحًا قَالَ يَا قَوْمِ أَعْبُدُوا اللَّهَ
 مَا لَكُمْ مِّنْ إِلَهٍ غَيْرُهُ ۗ وَقَدْ جَاءَكُمْ بَيِّنَةٌ مِّن رَّبِّكُمْ
 هَذِهِ نَاقَةُ اللَّهِ لَكُمْ آيَةٌ فَذُرُوهَا تَأْكُلْ فِي أَرْضِ
 اللَّهِ وَلَا تَمْسُوهَا بِسُوءٍ فَيَأْخُذَكُمْ عَذَابُ أَلِيمٍ ﴿٧٣﴾

68 わたしはあなた方にアッラーの唯一であるということとその法規を伝える。わたしはあなた方への、伝達に関する信頼できる助言者であり、伝達の内容に何も加えず、何も減らさない。

69 あなた方は驚くのか。天使やジンではなく、自分たちの一族の中にいるひとりの男を通して、警告のために、あなた方の主から戒めが来たことに。主を称賛し、不信仰のために滅ぼされたヌーフの民の後継ぎとして地上で確立し、またあなた方の身体を強大で強靱にされた、アッラーに感謝せよ。そして欲するものを獲得し、恐れるものを回避できることを願いながら、その大きな恩恵を想え。

70 かれらは言った。フードよ、あなたがやって来たのは、わたしたちがアッラーだけに仕え、自分の先祖が仕えてきたものを捨てるためなのか、もしあなたが主張することに正直な人なら、あなたが約束する苦痛をわたしたちにもたらしめてみると。

71 かれは言った。あなた方の主の懲罰と怒りは、もうあなた方に降りかかり、それから逃れることはできない。あなた方と先祖が命名した真実ではない多くの偶像神の名前については、アッラーが何の神性も授けていないのに、わたしと議論するのか。それならば延期を求めたその懲罰を待ちなさい。確かにわたしも、あなた方と共に待とう。それは現実なのだ。

72 そしてわれらは慈悲をもって、フード(平安を)及びかれと一緒にいる信者たちを救い、われらの印を拒否した人たちと信仰しなかった人たちを根絶した。かれらは嘘つきで、懲罰に価したのだ。

73 またサムードの民に、かれらの同胞サーリフを遣わし、アッラーが唯一なこととその崇拜を呼び掛けた。かれは言った。わたしの民よ、アッラーだけに仕えなさい。か

れの他に崇拝すべき神はなく、あなた方の主から真実の明証が来た。それは岩から出てくるこの雌ラクダで、あなた方への印である。それには水を飲む一定の時間があり、あなた方には別の水飲みの時間がある。雌ラクダに食べさせるため、アッラーの大地に放牧しなさい。あなた方には食料の責務はない。しかしそれに害を加えてはいけな。そうしないと、厳しい苦痛があなた方を襲うだろう。

本諸節の功德:

- アッラーに人々を呼ぶ時は、預言者たち(平安を)のように忍耐強くしなければいけない。
- アッラーに呼ぶ際の優先事項は、アッラーだけに祈り、それに並ぶものはなく、同列にすることを拒否し破棄することである。
- 物質的で肉体的なことに迷わされると、その人をアッラーの命令や禁止事項に対応しにくくする。
- 預言者はその民から来るが、しかしかれは、最善の家系で、最高の位階で、社会で誉れ高く、最良の逸材である。
- 預言者たちとその子孫は、馬鹿げた人々に対して寛大さを持って接する。悪口は、寛容さと容赦と赦しをもって無視する。

وَأذْكُرُوا إِذْ جَعَلَكُمْ خُلَفَاءَ مِنْ بَعْدِ عَادٍ وَبَوَّأَكُمْ فِي الْأَرْضِ تَتَّخِذُونَ مِنْ سُهولِهَا قُصُورًا وَتَتَّحِثُونَ الْجِبَالَ بُيُوتًا فَأَذْكُرُوا الْآءَاءَ اللَّهِ وَلَا تَعْتَوْا فِي الْأَرْضِ مُفْسِدِينَ ﴿٧٤﴾ قَالَ الْمَلَأُ الَّذِينَ اسْتَكْبَرُوا مِنْ قَوْمِهِ لِلَّذِينَ اسْتَضَعُّوا لِمَنْ ءَامَنَ مِنْهُمْ أَنْتَعَلَمُونَ أَنَّ صَليحًا مَرَّسَلٌ مِّن رَّبِّهِ ؕ قَالَ الْوَالِئَاتُ أَيَّمَا أَرُسِلَ بِهِهٖ مُؤْمِنُونَ ﴿٧٥﴾ قَالَ الَّذِينَ اسْتَكْبَرُوا إِنَّا بِلآئِي ءَامَنَّا بِهٖهٗ كَافِرُونَ ﴿٧٦﴾ فَعَقَرُوا النَّاقَةَ وَعَتَوْا عَنْ أَمْرِ رَبِّهٖمْ وَقَالُوا يُصَلِّحُ اتِّتَابِهَا تَعِدُنَا إِنْ كُنَّا مِنَ الْمَرْسَلِينَ ﴿٧٧﴾ فَأَخَذَتْهُمُ الرَّجْفَةُ فَأَصْبَحُوا فِي دَارِهِمْ جَاشِمِينَ ﴿٧٨﴾ فَتَوَلَّى عَنْهُمْ وَقَالَ يَلْقَوْمِ لَقَدْ أَبْلَغْتُكُمْ رِسَالَةَ رَبِّي وَنَصَحْتُ لَكُمْ وَلَٰكِن لَّا تُحِبُّونَ التَّصْحِيحَ ﴿٧٩﴾ وَوَلَوْ طَآءَفَ الْقَوْمِ ءَاتَاؤُنَ الْفَاحِشَةَ مَا سَبَقَكُمْ بِهَا مِنْ أَحَدٍ مِّنَ الْعَالَمِينَ ﴿٨٠﴾ إِنَّكُمْ لَتَأْتُونَ الرِّجَالَ شَهْوَةً مِّن دُونِ النِّسَاءِ ۗ بَلْ أَنْتُمْ قَوْمٌ مُّسْرِفُونَ ﴿٨١﴾

74 あなた方をアードの民の後継ぎとし、その地に定住させたときのアッラーの恵みや、あなた方の安楽な状況を想え。それはアードの民が不信仰と拒否に固執し、破壊された後のことだった。あなた方は平原に宮殿を設け、また岩山に家を彫った。だからアッラーの恵みを想い、感謝せよ。そして地上で腐敗を広げてはいけない。つまりそれは、アッラーへの不信仰や謀反を犯さないということだ。

75 かれの民の中の高慢な指導者たちは、そこで虐げられていた信者たちに言った。あなた方はサーリフが、かれの主から遣わされたことを知っているのか。かれら(信者)は言った。確かにわたしたちは、かれを信頼して、かれがもたらしたものに導かれ、その命に従う者である。

76 高慢な人たちは言った。確かにわたしたちは、あなた方が信じることを信じてはいない。また信じるはずもない。その命に従うこともない。

77 そこで、サーリフの約束したことを疑っているかれらは、その雌ラクダを屠殺して主の命令に逆らって言った。サーリフよ、もしあなたが使徒たちの1人であるならば、あなたがわたしたちに約束した痛ましい懲罰をもたらしてみろ。

78 するとかれらが急いでいた懲罰が下され、大地震がかれらを襲った。朝までにかれらはその家の中に平伏して、その顔と膝は床の上にあり、破壊を逃れた者はいなかった。

79 それでサーリフ(平安)はその反応にがっかりして、かれらから去って言った。わたしの民よ、確かにわたしは、主のお告げをあなた方に伝え、希望を与え、また恐怖も示して、助言をした。でもあなた方は、善を示し悪を避けるための証を望む助言者たちを好まない民である。

80 ルートはその民に言った。あなた方は、男性に近づくという禁じられた行為を犯すのか。あなた方以前、そのような行為はどの民族も行なったことがないのに。

81 あなた方は女性でなくて、情欲を満たすために男性に向う。それでは、理性にも教えにも天性にも従っていないことになる。

本当にあなた方は過度な人々で、アッラーの定めを逸脱する。人としての中庸さを失い、正常な理性と貴い天性が求める所から外れている。

本諸節の功徳:

- 資産と威厳が大きいと、傲慢となるが、それらが少ないと、信仰、信頼、従順さにつながるが多い。
- 宮殿のような豪邸を建てることは許される。アッラーへの感謝を伴う美しい建物は、恩寵の一端である。
- 普通は、貧者と弱者が預言者の真実の呼び掛けに耳を傾ける。しかし名士や指導者たちは、それに背いてそれよりも偉いと考ええる。
- アッラーの懲罰は、醜行がはびこり、その拒否が見られないならば、社会全体に及ぶこともある。

وَمَا كَانَتْ جَوَابَ قَوْمِهِ إِلَّا أَنْ قَالُوا أَخْرِجُوهُمْ مِّنْ قَرْيَتِكُمْ إِنَّهُمْ أَنَاسٌ يَّتَطَهَّرُونَ ﴿٨٤﴾ فَانْجَيْنَاهُ وَأَهْلَهُ إِلَّا أُمَّرَأَتَهُ وَكَانَتْ مِنَ الْغَابِرِينَ ﴿٨٥﴾ وَأَمْطَرْنَا عَلَيْهِمْ مَطَرًا فَأَنْظَرُوا كَيْفَ كَانَ عَاقِبَةُ الْمُجْرِمِينَ ﴿٨٦﴾ وَإِلَىٰ مَدْيَنَ أَخَاهُمْ شُعَيْبًا قَالَ يَا قَوْمِ أَعْبُدُوا اللَّهَ مَا لَكُم مِّنْ إِلَهِ غَيْرُهُ وَقَدْ جَاءَكُمْ بَيِّنَةٌ مِّن رَّبِّكُمْ فَأَوْفُوا الْكَيْلَ وَالْمِيزَانَ وَلَا تَبْخَسُوا النَّاسَ أَشْيَاءَهُمْ وَلَا تُفْسِدُوا فِي الْأَرْضِ بَعْدَ إِصْلَاحِهَا ذَٰلِكُمْ خَيْرٌ لَّكُمْ إِنْ كُنْتُمْ مُؤْمِنِينَ ﴿٨٧﴾ وَلَا تَقْعُدُوا بِكُلِّ صِرَاطٍ تُوعِدُونَ وَتَصُدُّونَ عَن سَبِيلِ اللَّهِ مَن ءَامَنَ بِهِ وَتَبْغُونَهَا عِوَجًا وَأَذْكَرُوا إِذْ كُنْتُمْ قَلِيلًا فَكثُرْتُمْ وَأَنْظَرُوا كَيْفَ كَانَ عَاقِبَةُ الْمُفْسِدِينَ ﴿٨٨﴾ وَإِنْ كَانَ طَائِفَةٌ مِّنْكُمْ ءَامَنُوا بِالَّذِي أُرْسِلْتُ بِهِ وَطَائِفَةٌ لَّمْ يُؤْمِنُوا فَاصْبِرُوا حَتَّىٰ يَحْكُمَ اللَّهُ بَيْنَنَا وَهُوَ خَيْرُ الْحَاكِمِينَ ﴿٨٩﴾

82) かれの民は禁じられた醜行について、真実に反して答えてこう言った。ルートとその従者たちを、あなた方の町から追い出そう、かれらは本当にわれわれの行為には手を染めない人たちのだから、われわれと共にいるのは不適當だ。

83) こうしてわれらは、かれとその家族を救った。罰を受ける町から、夜の間に逃げ出せというもの。ただしその妻は、後方に残された民の仲間として、同等の罰が襲った。

84) われらはかれらの上に、泥の塊の雨を降らせた。町は上下が逆になった。ルートの民のような、罪を犯す人の最後がどんなものであったかを考えてみよ。それは破壊と永久の恥辱であった。

85) またマドヤンの民に、かれらの同胞シュアイブ(平安を)を遣わした。かれは言った。わたしの民よ、アッラーに仕えなさい。かれの他に神はいない。あなた方の主から明証が来た。わたしがもたらすものは、真実なのだ。だからきちんと寸法をとり計量し、人の権利を損ねてはいけない。人々の商品の悪口を言い、けちったり、欺いたりして取り分を減らしてはいけない。また預言者たちの啓示によって正された後、不信仰と不服従により地上で腐敗を引き起こしてはいけない。もしあなた方が信者ならば、以上のことはあなた方のために最も善い。それで罪を阻止し、アッラーの禁止されたことを避け、そしてその命令に服することでアッラーに近づけるからだ。

86) あなた方は路上で待伏せして道行く人を脅かし泥棒をしたり、信者にアッラーの道を妨害したり、それを歪曲させようとしたりしてはいけない。アッラーの恩寵に感謝せよ。あなた方は少数であったけれど、かれがあなたがたを大勢にしたことを思い出せ。腐敗をもたらず人の最後がどうであったかを見よ。それは破壊と破滅であった。

87) もしあなた方の中に、わたしの使命を信じる一団と信じない一団とがあるときは、嘘だという者たちよ、アッラーがわたしたちの間を裁くまで待つがよい。アッラーは最も優れた判決者であり、最も公正な裁決者なのだ。

本諸節の功德:

- 男色は天性を逆行させる行為である。その罰もそれに似合ったものとなり、アッラーはかれらの町々を、逆様にさせた。
- シュアイブ(平安を)ら預言者らの呼び掛けには、二つの原則がある。一つは、アッラーの命令を確立し、それには唯一性と預言者を信じる事が含まれる。それから、アッラーの創造への慈しみの念であり、そこには分量を減らすこと、腐敗の放棄、あらゆる害悪を避ける事が含まれる。
- 地上が正された後、再び腐敗させることは、人間に対する社会的な罪である。なぜならば、信条により地上を正し、道徳的にすることは、全員にとって最善であるからだ。地上の腐敗は、人間への敵対行為である。
- 最もひどくて非道徳的な罪は、他人の物や財産を権利なく強制的に力で取得することである。それは強奪、不正、人への圧迫、禁制を犯すことであり、それを実行し継続し、悪を公に確定的なものにするからだ。